

(様式第 10)

大市大病第 413 号
平成 27 年 10 月 14 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 理事長 西澤 良記 (印)

大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 26 年度の業務
に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 5 5 8 - 8 5 8 5 大阪市住吉区杉本 3 丁目 3 番 1 3 8 号
氏 名	公立大学法人 大阪市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には
法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪市立大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 5 4 5 - 8 5 8 6 大阪市阿倍野区旭町 1 丁目 5 番 7 号	電話(06)-6645-2711
---	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度か つ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 神経内科 5 リウマチ科 6 肝臓・胆嚢・膵臓内科 7 感染症内科 8 9	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に
ついて記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記
入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で
医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 心臓血管外科 4 小児外科 5 整形外科 6 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科	(2)小児科	(3)整形外科	(4)脳神経外科	(5)皮膚科	(6)泌尿器科	(7)産婦人科
8産科	9婦人科	(10)眼科	(11)耳鼻咽喉科	(12)放射線科	13放射線診断科	
(14)放射線治療科	(15)麻酔科	(16)救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科・口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1病理診断科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
38床	床	床	床	942床	980床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	495人	261人	629.6人	看 護 補 助 者	59人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	2人	1人	2.5人	理 学 療 法 士	11人	臨 床 検 査 技 師	78人
薬 剤 師	53人	0人	53人	作 業 療 法 士	4人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	1人	0.9人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	34人	0人	34人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	855人	90人	920.7人	臨 床 工 学 士	18人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	8人
准 看 護 師	4人	8人	8.9人	栄 養 士	9人	そ の 他 の 技 術 員	9人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	170人
管 理 栄 養 士	9人	2人	10.7人	診 療 放 射 線 技 師	66人	そ の 他 の 職 員	221人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	24人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	52人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	14人
精 神 科 専 門 医	10人	放 射 線 科 専 門 医	28人
小 児 科 専 門 医	19人	脳 神 経 外 科 専 門 医	12人
皮 膚 科 専 門 医	13人	整 形 外 科 専 門 医	24人
泌 尿 器 科 専 門 医	17人	麻 酔 科 専 門 医	15人
産 婦 人 科 専 門 医	14人	救 急 科 専 門 医	7人
		合 計	259人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	733.3人	0人	733.3人
1日当たり平均外来患者数	1949.3人	0人	1949.3人
1日当たり平均調剤数	1, 203.8剤		
必要医師数			190人
必要歯科医師数			0人
必要薬剤師数			25人
必要(准)看護師数			435人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	512.05 m ²	鉄骨造 (耐火建築物)	病床数	24床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 190.26 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	19床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 55.78 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	562.45m ²		(主な設備) 化学自動分析装置、グルコース分析装置 グリコヘモグロビン分析装置等			
細菌検査室	154.20m ²		(主な設備) 全自動MGIT抗酸菌培養装置、 遺伝子リアルタイムPCR装置等			
病理検査室	317.24m ²		(主な設備) 自動脱水包埋装置、自動封入機、電子顕微鏡、 蛍光顕微鏡、免疫染色装置等			
病理解剖室	67.53m ²		(主な設備) 解剖台、撮影装置、ホルマリン作製装置等			
研究室	71.32m ²		(主な設備) モニター、電子カルテ			
講義室	205.79m ²		室数 1 室	収容定員 166 人		
図書室	7.67m ²		室数 1 室	蔵書数 150 冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	88.1%	逆紹介率	79.0%
算出根拠 A: 紹介患者の数			24,040人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			22,355人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			870人
D: 初診の患者の数			28,291人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	3人
末梢血単核球移植による血管再生治療	0人
培養細胞によるライソゾーム病の診断	2人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	1人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	10人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測効果(平成27年1月1日付け取下げ)	14人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	エンドトキシン除去向け血液浄化器、ポリミキシンB固定化繊維カラム(PMX)による血液浄化療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 間質性肺炎の急性増悪患者に対し、PMX施行のブラッドアクセスとして主に患者の大腿静脈や内頸静脈にダブルルーメンカテーテルを挿入する。血液ポンプを用いて流量を60～100ml/分で直接血液灌流を行う。PMX施行時の抗凝固剤としてナファモスタットメシレートを用いる。			
医療技術名	アスペルギルス抗体の測定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 慢性肺アスペルギルス症、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症患者に対し、採血の上、血液検査を行い、確定診断につなげる。			
医療技術名	難治性膠原病に対する細胞標的治療(リツキサン注)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、点滴治療。			
医療技術名	難治性膠原病に対する免疫抑制治療(セルセプト・カプセル)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、経口投与する。			
医療技術名	難治性膠原病に対する免疫抑制治療(グリベック錠)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、経口投与する。			
医療技術名	多中心性細網組織症および類縁疾患に対するビスホスホン酸製剤の経静脈的投与による治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 既存治療に抵抗性の難治性関節炎に対してテイロック®10mgを月1回1年間点滴投与する。			
医療技術名	早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後のトリアムシロンアセトニドを用いた狭窄予防治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 既存の治療法や薬剤では効果が認められない、早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄予防に、トリアムシロンアセトニドを用いた治療を施行する。			
医療技術名	食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後のトリアムシロンアセトニドを用いた狭窄予防治療	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 既存の治療法や薬剤では効果が認められない、食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄予防に、トリアムシロンアセトニドを用いた治療を施行する。			
医療技術名	食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)時におけるプロポフォールの使用	取扱患者数	44人
当該医療技術の概要 内視鏡室における食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)施行時の鎮静剤として用いる。			
医療技術名	局所治療不能な肝細胞癌に対するインターフェロン投与の試み	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 外科切除や経皮的焼灼療法の適応外である肝細胞癌患者に対し、1日1回内服投与し1年間継続する。			

医療技術名	膵癌に対するパクリタキセルとゲムシタピンの併用療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 手術不能膵癌患者に対してパクリタキセルを125mg/m ² の用量で保険承認のゲムシタピン1000mg/m ² に併用して点滴静注する。3投1休4週間を1コースとし効果を認める限り投与を繰り返す。			
医療技術名	肝類上皮性血管内皮腫に対する遺伝子組換え型インターロイキン2を用いた免疫療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外科切除の適応外である肝類上皮性血管内皮腫患者に対し、入院中、遺伝子組換え型インターロイキン2(テセロイキン)であるイムネース注35を週3回(1回あたり1瓶)点滴静注する。以後、週1回点滴静注する。			
医療技術名	肝硬変に合併した門脈血栓症に対するダナパロイドナトリウム投与による抗凝固療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外科的血栓除去法の適応外である門脈血栓症(肝硬変に合併したもの)患者に対し、入院中、第Xa因子阻害剤(ダナパロイドナトリウム)であるオルガラン静注1250単位を2週(1日あたり2瓶)点滴静注する。血栓が治療前と同程度あるいは増大していれば3週に延長する。			
医療技術名	大動脈炎症候群に対するトシリズマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 (難治性)大動脈炎患者に対し、トシリズマブを3週間隔で点滴静注する、			
医療技術名	神経型ゴーシェ病を対象としたアンブロキシソール(ムコソルバン)を用いたシャペロン療法の有効性と安全性に関するオープンラベル試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 アンブロキシソールは去痰剤としての用量の3倍量(成人1日135mg、小児1日2.7mg/kg)で投与を開始する。副作用、酵素活性の変動を見ながら3ヶ月毎に通常量の6倍(1日270mg)、9倍(405mg)、12倍(540mg)までの増量を行う。			
医療技術名	小児のミトコンドリア病における遺伝子スクリーニング検査	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 保険適応が認められていないミトコンドリア病(MELASとMARRF)における遺伝子点変異のスクリーニング検査			
医療技術名	難治性ネフローゼに対するリツキサン投与	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 入院中の患者に本薬剤を1回点滴静注する。最初の1時間は25mg/hの速度で点滴静注を開始し、患者の状態を十分観察しながら、その後注入速度を100mg/hにあげて1時間点滴静注し、更にその後は200mg/hまで速度をあげる。			
医療技術名	原因不明の先天異常症候群・神経代謝疾患に対するマイクロアレイおよび次世代シーケンサーによる遺伝子変異解析法を用いた診断と治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 従来の検査では診断が不可能であり、病因不明である先天異常症候群、遺伝性神経疾患患者に対し、5-10mlの採血を行う。染色体における微細な欠失や重複異常が検出できる。マイクロアレイ検査で検出不可能な遺伝子変異は次世代シーケンサーで解析を行う。患者の診断が可能となり、治療と予後説明が可能となる。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫を含む皮膚悪性腫瘍に対して、手術前日あるいは手術当日午前中に、RI室で病巣周囲を4分割した部位にTc製剤1mCiを皮下注射する。RI室にてガンマカメラで撮影し集積を認めた部位にマーキングを行う。 手術室においては、ガンマプローブを用いて集積部分を同定。パテントブルーバイオレット2.5%1mlを併用して、センチネルリンパ節の摘出を行う。			
医療技術名	浅在性皮膚悪性腫瘍に対するALAを用いた光線力学療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 日光角化症、ボーエン病、乳房外Paget病、浅在性基底細胞癌患者に対し、ALA含有軟膏を患部に密閉療法4時間後、患部にレーザー照射する。1ヶ月の間隔で治療を繰り返し、3回で1クールとする。			
医療技術名	胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 高齢による低肺機能や過去の開胸術による癒着などで、外科的切除が困難な肺癌症例を対象とする、病変径3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。			

医療技術名	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>腎機能温存や他疾患合併等で、外科的切除術が困難な悪性の腎腫瘍症例を対象とする。病変径は3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。</p>			
医療技術名	骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>既存の治療方による制御が困難な悪性の骨腫瘍、または類骨骨腫瘍症例を対象とし、体積減少や疼痛軽減による症状の緩和を目指す治療法である。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで下で経皮的(必要に応じて手術室で全身麻酔下にナビゲーションシステムによる直視下)に電極を刺入し標的病変に命中したことをCT(またはナビゲーション)で確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針は抜去し手技は終了する。CTガイド(またはナビゲーションシステム)で観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度である。</p>			
医療技術名	圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>悪性腫瘍の転移や骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折のため疼痛が強度で、日常生活に支障をきたしている症例を対象に疼痛緩和によるQOLの改善を目的に施行する。</p> <p>局所麻酔後、CTやX線透視でモニターしながら経皮的に骨生検針を骨折した脊椎椎体に刺入する、次いで少量(1-10ml程度)の骨セメントを注入し、適度な広がりになったことを画像で確認後、針を抜去して手技を終了する。</p> <p>治療に要する時間は1時間程度である。また、入院期間はおよそ1週間である。</p>			
医療技術名	軟部腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>侵襲の大きい外科的切除術を避けることが望まれ、かつ本療法による病変の縮小や疼痛の緩和が期待できる、転移等の軟部性悪性腫瘍を対象とする、患者選択に際しては、当該外科と協議して決定する。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。</p>			
医療技術名	ステントグラフト内挿術(オープン型ステントグラフト内挿術、経皮的ステントグラフト内挿術)	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>オープン型ステントグラフト内挿術は、脳分離体外循環下に弓部大動脈よりステントグラフトを遠位弓部～下行大動脈に内挿する。経皮的ステントグラフト内挿術は、経大腿動脈から逆行性に胸大動脈瘤内にステントグラフトを内挿する方法である。</p>			
医療技術名	経皮経肝門脈枝塞栓術	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>葉切除以上の肝切除が必要な肝癌、胆道癌患者に対し、</p> <p>血管造影室において、局所麻酔下超音波ガイド下に肝内門脈枝を穿刺し、門脈本幹内にカテーテルを挿入して直接門造影を行う。切除予定領域に流入する門脈枝を確認した後、同門脈枝内にバルーンカテーテルを挿入し、フィブリン糊を注入して同門脈を塞栓する。塞栓当日はベッド上安静とするが翌日から歩行や食事は再開する。</p> <p>この塞栓術から約2週間後、腹部CTなどにより充分な切除予定領域(塞栓領域)の萎縮と残存予定領域(非塞栓領域)の再生肥大が惹起されていることを確認した後、予定された肝切除を行う。</p>			
医療技術名	経皮的内視鏡下椎間板摘出術(PED/PELD)	取扱患者数	4人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>腰椎椎間板ヘルニア患者に対し局所麻酔もしくは静脈麻酔下に腹臥位となり、皮膚に8mmの穴を開け、そこから内視鏡と専用の手術器具を挿入してヘルニアを切除する。</p>			
医療技術名	末梢神経絞扼性障害の除圧範囲決定における術中神経栄養血管造影および電気生理学的検査の応用	取扱患者数	20人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>末梢神経障害で手術を受ける患者を対象に、術中、造影剤を使用し神経の血管造影を行い、電気生理学的検査で神経に対する除圧の効果を確認する。</p>			
医療技術名	ハンドインキュベーターを用いた術後浮腫の軽減	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>手の手術を受け、術後早期にリハビリを要する患者に対し、手術後に入院中もしくは外来でハンドインキュベーターを用いて術後浮腫の軽減を図る。</p>			

医療技術名	手根管症候群に対する低侵襲手術の開発	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 手根管症候群で手術を受ける患者を対象に、入院または外来手術で使用する。			
医療技術名	細胞培養依託システムを使用した関節鏡視下自己骨髄間葉系細胞移植による関節軟骨欠損修復	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 膝軟骨欠損に対して、自己骨髄間葉系幹細胞移植が可能な症例 腸骨より骨髄液を採取し、骨髄間葉系細胞を培養する。必要細胞数まで増やしたら、細胞浮遊液としてヒアルロン酸を加えて、関節鏡を使用し関節内に移植する。			
医療技術名	腎移植領域におけるリツキシマブの応用	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 1) 既存抗体陽性腎移植症例 3) 抗体関連拒絶反応発症症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 1) 2) の場合、移植前に0.1～0.5g/kgを点滴静注射 5日間投与 3) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する			
医療技術名	腎移植領域における5回以上のplasmapheresis	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例 腎移植領域において脱感作目的でのplasmapheresisは術前4回保険適応で認められている。しかしながら既存抗体陽性症例、ABO不適合腎移植血液型抗体価高値症では4回のplasmapheresisでは手術可能な状態とならないことがある。そのため、手術可能な状態となるまで更にplasmapheresisが4～6回必要となることがある。			
医療技術名	腎移植領域における免疫グロブリン大量投与療法の応用	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 1) 既存抗体陽性腎移植症例 3) 抗体関連拒絶反応発症症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 1) 2) の場合、移植前に0.1～0.5g/kgを点滴静注射 5日間投与 3) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する			
医療技術名	ロボット補助下腹腔鏡腎部分切除	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 画像診断によりcT1,cN0,cM0 ステージの腎がんと判定された患者を対象にda Vinci サージカルシステムを用いたロボット補助下腹腔鏡下部分切除術を行う。施行するにあたっては、日本泌尿器内視鏡学会のガイドラインに従って行う。			
医療技術名	ロボット補助下腹腔鏡ドナー腎採取術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 生体腎移植ドナーにおいて、da Vinci サージカルシステムを用いたロボット補助下腹腔鏡ドナー腎採取術を行う。ロボットによる微細な手術により、ドナー腎に愛護的な操作が期待できる。			
医療技術名	アバスチン硝子体内注射	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、ぶどう膜炎、新生血管黄斑症、網膜血管拡張症、網膜血管腫、網膜血管炎、新生血管緑内障の諸症状について 手術室にて眼瞼および結膜嚢を消毒後、顕微鏡下にてアバスチン0.05mlを30G針にて、硝子体内に注射する。 アバスチン点滴静注用(4ml)を0.2ml毎に分注して使用する。アバスチン点滴静注用4mlから約20本、硝子体内用の注射液を作成することができる。			
医療技術名	組織プラスミノゲンアクチベータ(t-PA) 網膜下注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、新生血管黄斑症、網膜細動脈瘤 手術室にて硝子体手術時に網膜下へt-PAを注入し、網膜下出血を洗浄する。			
医療技術名	経皮的硬膜外神経形成術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 神経ブロック等、種々の保存的治療に抵抗を示す椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、腰椎手術後の腰下肢痛患者に対し、入院にて行う。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の急性GVHDの初期治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 造血器疾患に対して、同種造血幹細胞移植を受け、grade II 以上の急性GVHDを発症した患者。 組織学的あるいは臨床症状よりgrade II 以上の急性GVHDが発症したと診断された後、セルセプト1.5g/日(体重40キロ以上60キロ未満の患者)あるいは2.0g/日(体重60kg以上80kg未満の患者)の内服を開始する。 一日投与量を12時間ごとに内服する。			

医療技術名	治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 抗血小板抗体が存在する治療抵抗性の血小板減少症患者に対し、入院にて点滴投与する。			
医療技術名	肝中心静脈閉塞(VOD)/静脈閉塞性肝疾患(SOS)に対するトロンボモジュリンの有効性と安全性の検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 治療抵抗性の肝中心静脈閉塞症(VOD)/静脈閉塞性肝疾患(SOS)に対してリコモジュリンを点滴投与			
医療技術名	治療抵抗性慢性GVHDに対するリツキシマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 治療適応となる中等症以上で、ステロイドによる初期治療抵抗性の慢性GVHDに対してリツキサンを点滴投与する。			
医療技術名	本邦におけるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植後におけるBortezomibを用いたGVHD予防法の安全性の検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 GVHDのハイリスクとなるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+メソトレキセートの標準的GVHD予防療法に加えて、Bortezomibを移植後計3回点滴投与する。			
医療技術名	造血幹細胞移植後の移植後リンパ増殖性疾患(PTLD)に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 造血幹細胞移植後に末梢血EBウイルスDNA定量検査にてEBウイルスの増加を認めるか、もしくは組織にてPTLDの診断を満たす症例に対して、リツキサンを点滴投与する。			
医療技術名	顆粒球輸注ドナーに対する顆粒球採取	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 より多くの顆粒球(好中球)を採取するため、採取前にドナーに顆粒球コロニー刺激因子G-CSF(ノイトロジン注)を皮下注射し、ステロイド(デキサメタゾン)を内服してもらう。また、顆粒球をより効率よく採取するためサリンヘスを点滴し、採取する。採取時には血液が固まらないようにクエン酸を使用するが、その際の副作用を防ぐためにカルチコール注を点滴する。(現在わが国においては、同種末梢血幹細胞移植の健康保険適用は健康な「血縁ドナー」にG-CSFを投与して末梢血幹細胞を採取する場合に限られている。一方、顆粒球採取を目的として健康人にG-CSFを投与することは、現時点では健康保険適用とされていない。)			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の治療抵抗性Idopathic pneumonia syndrome (IPS)に対するエタネルセプト治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後の重篤なIPSに対し、ステロイド全身投与で改善しない場合に点滴投与する。			
医療技術名	治療抵抗性血栓性血小板減少性紫斑病に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 血漿交換や血漿輸血などの治療に抵抗性の血栓性血小板減少性紫斑病に対して点滴投与する。			
医療技術名	再発難治性血管免疫芽球性T細胞リンパ腫に対するシクロスポリン療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ネオーラル3~5mg/kgを1日2回に分けて内服する。6~8週間後より1~3週ごとに50mgずつ減量する。適宜血中濃度を測定し、トラフ値を参考に増減する。また、内服困難時は適宜点滴(サンディミュン)への変更も考慮する。			
医療技術名	HLA半合致移植における移植後シクロフォスファミドによるGVHD予防療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 GVHDのハイリスクとなるHLA半合致ドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+MMFの標準的GVHD予防療法に加えて、シクロフォスファミドを移植後点滴投与する。			
医療技術名	ブドウ糖PETによる認知症診断	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 肘静脈よりFDGスキャン注を静脈投与し、その後PETカメラにて頭部撮影。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	95人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	47人	・広範脊柱管狭窄症	12人
・重症筋無力症	48人	・原発性胆汁性肝硬変	99人
・全身性エリテマトーデス	241人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	64人
・再生不良性貧血	55人	・混合性結合組織病	34人
・サルコイドーシス	76人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	11人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	128人	・網膜色素変性症	11人
・特発性血小板減少性紫斑病	77人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	25人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	608人	・神経線維腫症	42人
・大動脈炎症候群	22人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	17人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5人
・天疱瘡	28人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	42人	・ライソゾーム病	30人
・クローン病	374人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	14人	・脊髄性筋委縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	133人	・球脊髄性筋委縮症	1人
・アミロイドーシス	2人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7人
・後縦靭帯骨化症	91人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	19人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	8人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	52人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	13人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	8人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	99人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算
・臨床研修病院入院診療加算	・救命救急入院料1
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料4
・妊産婦緊急搬送入院加算	・特定集中治療室管理料1
・診療録管理体制加算2	・特定集中治療室管理料2
・急性期看護補助体制加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・看護補助加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・新生児特定集中治療室退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・病棟薬剤業務実施加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・透析液水質確保加算2
・糖尿病合併症管理料	・一酸化窒素吸入療法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・がん患者指導管理料1	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)
・がん患者指導管理料2	・腫瘍脊椎骨全摘術
・がん患者指導管理料3	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び
・外来緩和ケア管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレー)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・網膜再建術
・糖尿病透析予防指導管理料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来リハビリテーション診療料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・外来放射線照射診療料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・ニコチン依存症管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・地域連携診療計画管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・がん治療連携計画策定料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・がん治療連携管理料	・経皮的冠動脈形成術
・認知症専門診断管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・薬剤管理指導料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録
・医療機器安全管理料2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペース
・持続血糖測定器加算	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及
・造血器腫瘍遺伝子検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・検体検査管理加算(I)	・補助人工心臓
・検体検査管理加算(IV)	・経皮的大動脈遮断術

・遺伝カウンセリング加算	・ダメージコントロール手術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査	・腹腔鏡下肝切除術
・植込型心電図検査	・生体部分肝移植術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術
・時間内歩行試験	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・人工臍臓	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・脳磁図	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・神経学的検査	・同種死体腎移植術
・補聴器適合検査	・生体腎移植術
・小児食物アレルギー負荷検査	・膀胱水圧拡張術
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・センチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・センチネルリンパ節生検(単独)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ポジトロン断層撮影	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
・CT撮影及びMRI撮影	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・冠動脈CT撮影加算	・輸血管理料 I
・心臓MRI撮影加算	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・外来化学療法加算1	・内視鏡手術用支援機器加算
・無菌製剤処理料	・麻酔管理料(Ⅰ)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・放射線治療専任加算
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・外来放射線治療加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・高エネルギー放射線治療
・がん患者リハビリテーション料	・強度変調放射線治療(IMRT)

・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・医療保護入院等診療料	・保険医療機関間の連携による病理診断
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・病理診断管理加算2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 37例 / 剖検率 11.6%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
メディカルコントロール体制の充実強化に係る研究	溝端 康光	救急医学	0	補 委	厚生労働 科研
災害医療のメディカルディレクター養成	溝端 康光	救急医学	4,000,000	補 委	文部科学 省課題解 決型高度 医療人材
糖尿病・虚血性足潰瘍に対する下肢救済治療法の開発	元村尚嗣	形成外科学	1,000,000	補 委	公益財団 法人大阪 難病研究 財団 医学 研究助成
造血細胞移植における肝中心静脈閉塞症(VOD)に対する本邦未承認薬 defibrotideの国内導入のための研究:第I相および第II相試験(医師主導治験)	中前博久 (分担研究者)	血液内科・造血細胞移植科	500,000	補 委	厚生科研 医療技術 実用化総 合研究事 業
成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	中前博久 (分担研究者)	血液内科・造血細胞移植科	1,000,000	補 委	厚労科研 革新的が ん医療実 用化研究 事業
難治性白血病に対する同種造血幹細胞移植後の再発と感染症発症抑制に関する研究	康 秀男	血液内科・造血細胞移植科	1,040,000	補 委	科学研究 費 若手研 究(B)
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	中村博亮 (分担金)	整形外科	700,000	補 委	厚生労働 科学研究 費補助金 難治性疾 患克服研 究事業
関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復-多施設共同、非盲検、ランダム化、平行比較試験	橋本祐介 (分担金)	整形外科	3,500,000	補 委	厚生労働 科学研究 費補助金 再生医療 実用化研 究事業
平成26年度海外派遣研修医	岡野匡志	整形外科	1,000,000	補 委	日本リウ マチ財団
インドシアニングリーン動画解析システムを用いた末梢神経内血流評価と臨床応用	岡田充弘	整形外科	500,000	補 委	一般社団 法人 日本 手外科学 会

パラバイオシスラットを利用した半月板損傷修復過程解明と組織修復への応用	箕田 行秀	整形外科	1,040,000	補 委	基盤研究 (C)
FGF drug/iPS cellデリバリーシステム併用による末梢神経再生の促進	中村 博亮	整形外科	1,560,000	補 委	基盤研究 (C)
iPS細胞移植による末梢神経再生の促進メカニズムと安全性(マウス/イヌモデル)	上村 卓也	整形外科	1,690,000	補 委	基盤研究 (C)
転移性骨腫瘍に対する内固定の腫瘍抑制効果の検討	寺井 秀富	整形外科	1,300,000	補 委	基盤研究 (C)
iPS細胞注射による低侵襲脊椎固定術の開発	鈴木 亨暢	整形外科	1,950,000	補 委	基盤研究 (C)
赤外蛍光造影を用いた末梢神経絞扼性障害における神経内血流の可視化と臨床応用	岡田 充弘	整形外科	3,640,000	補 委	基盤研究 (C)
自己単核球を含む多血小板血漿ゲルを用いた半月板再生方法の開発	橋本 祐介	整形外科	1,950,000	補 委	基盤研究 (C)
活性型ビタミンD3による関節軟骨変性予防効果とそのメカニズムの解明	大田 陽一	整形外科	1,950,000	補 委	若手研究 (B)
変性関節軟骨における粘弾性係数分布のマイクロ断層可視化法(多機能OCT)の開発	池淵 充彦 (分担金)	整形外科	130,000	補 委	基盤研究 (C)
骨髄間葉系幹細胞からの生体外作成軟骨シートによる鏡視下間接軟骨欠損修復術の開発	橋本 祐介 (分担金)	整形外科	650,000	補 委	基盤研究 (B)
脳神経外科手術用止血剤の開発に向けた組織接着性ハイドロゲルの安全性評価研究	大畑 建治	脳神経外科学	3,083,320	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
高磁場MR装置を用いた、拡散強調画像による自己免疫性脱髄疾患患者の脳温度解析研究	三木 幸雄	放射線医学	1,560,000	補 委	基盤研究 (C)
高磁場MRIを用いた位相差強調画像法による脳腫瘍内微細構造の分離画像化	坂本 真一	放射線医学	1,300,000	補 委	基盤研究 (C)
肺腫瘍に対するラジオ波凝固療法と化学療法併用の基礎的研究	大隈 智尚	放射線医学	1,690,000	補 委	基盤研究 (C)
Graves病に対する甲状腺動脈塞栓術～第4の治療への検討～	山本 晃	放射線医学	1,950,000	補 委	基盤研究 (C)

脳定位放射線照射における神経損傷の拡散テンソル画像による解析	細野 雅子	放射線医学	650,000	補委	基盤研究(C)
組織構造を考慮した3次元的なCTVマージンのシミュレーションとその評価	堤 真一	放射線医学	650,000	補委	若手研究(B)
2次性副甲状腺機能亢進症における副甲状腺メカニシムの病態生理学的役割の研究	今西 康雄	代謝内分泌病態内科学	1,950,000	補委	基盤研究(C)
ビタミンDシグナルによる副甲状腺腫瘍化抑制機構の検討	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	1,950,000	補委	基盤研究(C)
尿毒症物質をターゲットとした透析患者の心血管疾患発症の抑制を目指す包括的研究	森 克仁	代謝内分泌病態内科学	1,560,000	補委	基盤研究(C)
肝星細胞脱活性化剤開発による肝硬変の肝機能改善と肝発がん予防	河田 則文	肝胆膵病態内科学	43,200,000	補委	厚生労働省
B型肝炎ウイルス構造解析による薬剤応答性の評価と新規治療薬開発に関する研究	村上 善基	肝胆膵病態内科学	47,500,000	補委	厚生労働省
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	榎本 大	肝胆膵病態内科学	1,000,000	補委	厚生労働省
肝炎に関する全国規模のデータベースを用いた肝炎治療の評価及び肝炎医療の水準の向上に資する研究	河田 則文	肝胆膵病態内科学	2,000,000	補委	厚生労働省
B型肝炎におけるマイクロRNAを用いた肝線維化マーカーの開発	榎本 大	肝胆膵病態内科学	1,690,000	補委	基盤研究(C)
脂肪肝炎における肝脂肪化のメカニズムの解明	藤井 英樹	肝胆膵病態内科学	1,560,000	補委	基盤研究(C)
microRNA機能を抑制する新規核酸分子iMIRの開発と治療戦略の確立	村上 善基 (分担金)	肝胆膵病態内科学	390,000	補委	挑戦的萌芽研究
難治性疾患に対するmiRNA補充療法の開発	村上 善基 (分担金)	肝胆膵病態内科学	260,000	補委	基盤研究(B)
甲状腺乳頭癌に対するRI療法の意義に関する医師主導・多施設共同・全国調査研究	小野田 尚佳	腫瘍外科学	350,000	補委	公益財団法人放射線影響協会

研究課題名スキルス胃癌に対する分子標的治療薬の新規開発	八代 正和	腫瘍外科学	1,000,000	補委	大阪市立大学平成26年度戦略的研究重点研究(B)
ヒト胃癌細胞株の増殖能の解析	八代 正和	腫瘍外科学	6,000,000	補委	第一三共株式会社
難治癌の増殖進展に関わる分子メカニズムの解明	八代 正和	腫瘍外科学	4,000,000	補委	小野薬品工業株式会社
FGFR阻害剤TAS-120 (TAS-2985)の胃癌細胞に対する抗腫瘍効果の検討	八代 正和	腫瘍外科学	2,500,000	補委	大鵬薬品工業株式会社
FGFR阻害剤TAS-120 (TAS-2985)の胃癌細胞に対する抗腫瘍効果の検討	八代 正和	腫瘍外科学	434,960	補委	Five Prime Therapeutics, Inc.,
乳癌に対する術前薬物療法における治療戦略研究	高島 勉	腫瘍外科学	500,000	補委	厚生労働科学研究委託費(革新的がん医療実用化研究事業)
進行・再発膵癌に対する新規エピトープペプチドカクテル療法と標準化学療法の併用効果を検討する多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験(山口大学:岡班)	田中浩明	腫瘍外科学	2,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担研究者)
トリプルネガティブ乳癌におけるE-cadherin発現の分子機構の解明および臨床的検証	柏木 伸一郎	腫瘍外科学	2,000,000	補委	武田科学振興財団
トリプルネガティブ乳癌におけるE-cadherin発現の臨床的意義および分子機構の解明	柏木 伸一郎	腫瘍外科学	1,000,000	補委	公益財団法人 大阪コミュニティ財団
甲状腺未分化癌と上皮間葉転換の関連に関する研究	小野田 尚佳	腫瘍外科学	1,170,000	補委	基盤研究(C)
胃癌リンパ節内の免疫寛容とリンパ管内皮細胞との相関及び転移予測マーカーの同定	田中 浩明	腫瘍外科学	1,430,000	補委	基盤研究(C)
スキルス胃癌の難治性克服: 癌幹細胞のオートファジーと分子標的治療開発	平川 弘聖	腫瘍外科学	4,290,000	補委	基盤研究(B)
総合病院における診療体制と連携の明確化	分担研究者 井上幸紀	神経精神医学	740,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
インターネット依存障害の病態および治療に関する研究	片上素久	神経精神医学	1,660,000	補委	科学研究費補助金

労働者、職業性ストレスと食行動に関する研究	山内常生	神経精神医学	1,200,000	補 委	科学研究費補助金
就労者における双極性障害の早期診断、事例性に関する研究	出口裕彦	神経精神医学	600,000	補 委	科学研究費補助金
労働者の職業性ストレスと食行動に関する研究	山内 常生	神経精神医学	1,560,000	補 委	若手研究(B)
就労者における双極性障害の早期診断、事例性に関する研究	出口 裕彦	神経精神医学	780,000	補 委	若手研究(B)
インターネット依存障害の病態および治療に関する研究	片上 素久	神経精神医学	941,906	補 委	若手研究(B)
分子イメージング研究戦略推進プログラム「分子イメージングによるタウ凝集阻害薬開発」	伊藤 義彰	神経内科	3,692,308	補 委	国立大学法人京都大学 文部科学省
脳内タウイメージング用放射性薬剤[11C]PBB3を用いた健常者、認知症および神経変性疾患患者の病態解明に関する研究	伊藤 義彰	神経内科	8,461,539	補 委	独立行政法人放射線医学研究所
家族性アルツハイマー病に関する縦断的観察コホート研究	嶋田 裕之 (分担者)	神経内科	1,000,000	補 委	厚生労働省
高齢認知症患者における高齢者タウオパチーの臨床的分離同定に関する研究	嶋田 裕之	神経内科	1,040,000	補 委	基盤研究(C)
アミロイドPET陰性認知症患者におけるタウ蛋白集積と神経細胞障害の評価	安宅 鈴香	神経内科	1,560,000	補 委	基盤研究(C)
脳塞栓症急性期治療における新規経口抗凝固薬の有用性と安全性	伊藤 義彰	神経内科	1,820,000	補 委	基盤研究(C)
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	鶴田 大輔	皮膚科	1,800,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
難治性脱毛に対するカンナビノイド受容体を介した新規の治療薬の開発	菅原 弘二	皮膚科	1,690,000	補 委	基盤研究(C)
水疱性類天疱瘡における水疱維持・治癒機構に関する動的解明研究	鶴田 大輔	皮膚科	1,300,000	補 委	基盤研究(C)
多剤耐性菌皮膚潰瘍に対する5-ALA全身投与によるPDT研究	小澤 俊幸	皮膚科	2,080,000	補 委	基盤研究(C)
白皮症の治療ーナンセンス変異リードスルー効果の基礎研究	深井 和吉	皮膚科	910,000	補 委	挑戦的萌芽研究

循環器疾患発症リスクによる内皮機能への影響の分析	竹本恭彦	医学研究科 総合医学教育学/ 総合診療センター	500,000	補 委	「知の拠点 あいち」 重点研究 プロジェクト
喫煙による血管障害におけるニコチン依存度とトロニボスポンジンの関与と機序	竹本恭彦 (分担金)	医学研究科 総合医学教育学/ 総合診療センター	600,000	補 委	基盤研究 (B)
遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験	竹本恭彦	医学研究科 総合医学教育学/ 総合診療センター	365,796	補 委	基盤研究 (C)
低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療に関する研究	新宅治夫	小児科	50,000,000	補 委	厚生労働 省
新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準作成と治療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究	新宅治夫	小児科	600,000	補 委	厚生労働 省
保健機関が実施するぜん息事業と教育・保育機関との連携によるぜん息の発症・増悪の予防、改善のための新しいシステムの構築に関する研究	新宅治夫	小児科	3,850,000	補 委	環境再生 保全機構
臍帯血を用いた新生児免疫の解明を基盤とした、乳幼児の消化管感染症に対する舌下粘膜ワクチンの開発	徳原大介	小児科	1,000,000	補 委	厚生科研
iPS細胞を用いた小児神経伝達物質病モデルの創出	濱崎 考史	小児科	520,000	補 委	基盤研究 (C)
マイクロペットを用いたメンケス病のキレート剤による治療効果に関する研究	新宅 治夫	小児科	1,040,000	補 委	基盤研究 (C)
ヒトiPS細胞を用いたムコ多糖症におけるワクチンの免疫誘導効果の解析	徳原 大介	小児科	1,300,000	補 委	基盤研究 (C)
ムコ多糖症III型の自閉傾向・知的退行と脳内慢性炎症の関与についての研究	瀬戸 俊之	小児科	2,470,000	補 委	基盤研究 (C)
新生児の自然免疫応答の解明を基盤としたRSウイルス経鼻ワクチンの開発	齊藤 三佳	小児科	1,820,000	補 委	挑戦的萌 芽研究
グルタメイト脱水酵素異常症モデルマウスによる病態解明と治療法の開発	徳原 大介 (分担金)	小児科	650,000	補 委	基盤研究 (C)

消化器疾患関連睡眠障害におけるサロゲートマーカーの探索	藤原 靖弘	消化器内科学	910,000	補委	基盤研究(C)
成長過程におけるストレス応答と腸管グリア細胞による内臓知覚過敏とその包括的解析	富永 和作	消化器内科学	1,560,000	補委	基盤研究(C)
胃内細菌叢をターゲットとした胃癌の予防・早期発見法の開発	渡邊 俊雄	消化器内科学	1,820,000	補委	基盤研究(C)
心臓リハビリテーション療法へのマイオカインおよび心血管機能による多面的アプローチ	葭山 稔	循環器病態内科学	1,690,000	補委	基盤研究(C)
冠動脈MRI・MRAによる不安定プラークの診断、及び薬剤の冠動脈血管径への影響	江原 省一	循環器病態内科学	129,677	補委	基盤研究(C)
「急性心筋梗塞に対するヒトIL-11製剤を用いた心筋保護治療の安全性・有効性に関する臨床試験」に関する研究	葭山 稔	循環器病態内科学	19,000,000	補委	厚生労働省
大動脈プラークへのマルチプルバイオマーカーおよび心血管画像診断法によるアプローチ	杉岡 憲一	循環器病態内科学	1,300,000	補委	基盤研究(C)
冠動脈MRIによる心血管イベント、およびPCI中のno-reflowの予知・予防	江原 省一	循環器病態内科学	2,080,000	補委	基盤研究(C)
慢性心不全の新しい治療法「四肢駆血による非薬物療法」	島田 健永	循環器病態内科学	2,860,000	補委	基盤研究(C)
抗うつ薬、抗痙攣薬による神経障害性疼痛の予防ーインビボパッチクランプ法による検討	森 隆	麻酔科学	2,080,000	補委	基盤研究(C)
神経障害性疼痛モデルラットにおける下降性抑制系賦活機構の検討	西川 精宣	麻酔科学	780,000	補委	基盤研究(C)
糖尿病性神経障害における脊髄刺激療法による脊髄モノアミン動態の検討	舟尾 友晴	麻酔科学	1,950,000	補委	基盤研究(C)
術後回復を促進し合併症軽減を可能にする新しい周術期抗酸化ストレス治療戦略の確立	土屋 正彦	麻酔科学	2,210,000	補委	基盤研究(C)
局所麻酔薬の心毒性に対するリピッドレスキューの機序解明	松浦 正	麻酔科学	1,170,000	補委	若手研究(B)

手術患者の酸化ストレス病態の解明と抗酸化治療による手術侵襲治療戦略の確立	土屋 正彦	麻酔科学	1,293,800	補 委	基盤研究 (C)
膀胱癌に対するSteroid Sulfataseの作用機序の解明	玉田 聡	泌尿器病態学	1,170,000	補 委	基盤研究 (C)
気道組織の老化反応から見た難治性喘息の病態解明と新規治療戦略の確立	金澤 博	呼吸器内科学	1,690,000	補 委	基盤研究 (C)
臨床病理学および分子生物学的検討による肝内胆管癌化学発癌メカニズムの解明	久保 正二	肝胆膵外科	1,950,000	補 委	基盤研究 (C)
敗血症における臓器障害保護をめざした一酸化炭素供与体のより安全な投与法の確立	水口 真二郎	肝胆膵外科	1,430,000	補 委	若手研究 (B)
星細胞サイトグロビンは慢性肝障害からの発がん家庭に關与するか？	河田 則文	肝胆膵外科	3,030,000	補 委	若手研究 (B)
肝移植後のレシピエントの妊娠・出産における心理的体験と医療支援に関する研究	久保 正二 (分担金)	肝胆膵外科	65,000	補 委	基盤研究 (C)
環境暴露による胆管発癌時の胆汁プロファイルとレドックス解析による早期診断への応用	竹村 茂一 (分担金)	肝胆膵外科	520,000	補 委	挑戦的萌芽研究
印刷労働者にみられる胆管癌発症の疫学的解明と原因追究	久保正二	肝胆膵外科	500,000	補 委	厚生労働 科学研究費
肝移植後のレシピエントの妊娠・出産における心理的体験と医療支援に関する研究	久保正二	肝胆膵外科	50,000	補 委	文部科学 省科学研究費
臨床病理学および分子生物学的検討による肝内胆管癌化学発癌メカニズムの解明	久保正二	肝胆膵外科	1,390,000	補 委	文部科学 省科学研究費
門脈血行異常に関する調査研究	塩見 進	核医学科	90,000	補 委	厚生労働 省難治性 疾患実用 化研究事業

計108

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	芳田 裕作	視覚病態学(眼科)	Macular Hole Formation Following Choroidal Neovascularization Treatment in A High Myopic Eye with Epiretinal Membrane	International Journal of Ophthalmology and Clinical Research 2巻1号2015年
2	元村 尚嗣	形成外科	Dynamic eye socket reconstruction after extensive resection of midfacial malignancies: preliminary results using temporalis transfer	Acta Otolaryngol.134: 1205-10, 2014
3	元村 尚嗣	形成外科	Dynamic Eye Socket Reconstruction after Extended Total Maxillectomy using Temporalis Transfer	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 67:e78-80, 2014
4	西本 光孝	血液内科・造血細胞移植科	Feasibility of umbilical cord blood transplantation with a myeloablative, reduced toxicity-conditioning regimen.	Bone Marrow Transplant. 49(7):980-981,2014
5	西本 光孝	血液内科・造血細胞移植科	Response-guided therapy for steroid-refractory acute GVHD starting with very-low-dose anti-thymocyte globulin	Exp Hematol. 43(3):177-179,2015
6	井口 太郎	泌尿器科	Editorial Comment to Percutaneous nephrolithotomy increase the risk of diabetes: A 5-year follow-up study	International Journal of Urology 21 (7) 669 (2014年7月)
7	田中 智章	泌尿器科	Efficacy of naftopidil for nocturia in male patients with lower urinary tract symptoms: Comparison of morning and evening dosing.	International of Urology22(3):317-21 (2014年11月)
8	長沼 俊秀	泌尿器科	Editorial Comment to Multidisciplinary clinical strategies for encapsulating peritoneal sclerosis in peritoneal dialysis: Update from Japan	International Journal of Urology 21(8) 761-762 (2014年7月)
9	田中 智章	泌尿器科	Editorial comment from Dr Tanaka to Non-bladder conditions in female Taiwanese patients with interstitial cystitis/hypersensitive bladder	Int J Urol. 21(8):810. (2014年8月)
10	井口 太郎	泌尿器科	Bone and Calcium Research Update 2015. Clinical update of urolithiasis - ESWL (extracorporeal shock wave lithotripsy) -	Clinical Calcium 25(1)97-104 (2015年1月)
11	田中 智章	泌尿器科	Efficacy of naftopidil for nocturia in male patients with lower urinary tract symptoms: Comparison of morning and evening dosing	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY 22(3):317-21. (2015年3月)

12	造酒 慶喬	放射線治療科	Neoadjuvant capecitabine, bevacizumab and radiotherapy for locally advanced rectal cancer: results of a single institute Phase I study	Journal of Radiation Reserch,2014,55, 1171-1177
13	内田 健一郎	救急医学	Recent risk factors for open surgical mortality in patients with ruptured abdominal aortic aneurysm	Acute Medicine and Surgery, 2014, 1, 207-213
14	金澤 博	呼吸器内科学	Potential role of pentosidine on susceptibility to small airway closure in elderly and smoking asthma.	Respiratory Medicine 108(5):709-715. 2014年5月
15	金澤 博	呼吸器内科学	Simultaneous assessment of hepatocyte growth factor and vascular endothelial growth factor in epithelial lining fluid from patients with COPD.	Chest 146(5):1159-1165. 2014年11月
16	森迫 拓貴	脳神経外科	Petroclival meningiomas resected via combined transpetrosal approach: surgical outcomes in 60 patients and a new scoring system for clinical evaluation.	Journal of Neurosurgery Nov. 7: 1-8
17	高見 俊宏	脳神経外科	Surgical management of spinal intramedullary tumors: radical and safe strategy for benign tumors.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2015 Apr 15;55(4):317-27. doi: 10.2176/nmc.ra.2014-0344. Epub 2015 Mar 23.
18	寺井 秀富	整形外科	Tandem keyhole foraminotomy in the treatment of cervical radiculopathy: retrospective review of 35 cases	J Orthop Surg Res.9 (38) 2014
19	岡野 匡志	整形外科	Systemic administration of granulocyte colony-stimulating factor for osteochondral defect repair in a rat experimental model.	Cartilage 5(2) 97-106 (2014年4月)
20	岡野 匡志	整形外科	The limited effects of anti-tumor necrosis factor blockade on bone health in patients with rheumatoid arthritis under the use of glucocorticoid.	J Bone Miner Metab 32(5) 593-600 (2014年9月)
21	岡田 充弘	整形外科	Combined medialis pedis and medial plantar fasciocutaneous flaps for coverage of soft tissue defects of multiple adjacent fingers.	Microsurgery 34:454-458, 2014.
22	上村 卓也	整形外科	Entrapment of digital nerves due to an embedded ring: a case report.	J Reconstr Microsurg. 2014 Nov;30(9):659-61.
23	上村 卓也	整形外科	Long-term efficacy and safety outcomes of transplantation of induced pluripotent stem cell-derived neurospheres with bioabsorbable nerve conduits for peripheral nerve regeneration in mice.	Cells Tissues Organs. 2014;200(1):78-91.
24	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	Restoration of parathyroid function after change of phosphate binder from calcium carbonate to lanthanum carbonate in hemodialysis patients with suppressed serum parathyroid hormone.	J Ren Nutr 25(2); 242-6, 2015

25	石村 栄治	腎臓病態内科学・代謝内分 泌病態内科学	Relationship between serum sclerostin, bone metabolism markers, and bone mineral density in maintenance hemodialysis patients	J Clin Endocrinol Metab 99(11) : 4315-20, 2014
26	石村 栄治	腎臓病態内科学	Significant association between bone-specific alkaline phosphatase and vascular calcification of the hand arteries in male hemodialysis patients	Kidney Blood Press Res 39 (4): 299-307, 2014
27	庄司 哲雄	老年血管病態学・代謝内分 泌病態内科学	Endocrine and metabolic changes affecting cardiovascular disease in dialysis patients	J Ren Nutr 25(2): 223-5, 2015
28	榎本 大	肝胆膵病態内科学	Adjuvant epoetin- β with peginterferon- α and ribavirin in Japanese ribavirin-intolerant relapsed patients with chronic hepatitis C genotype 2.	Hepatol Res. 2014; 44(10):E290-6.
29	田守 昭博	肝胆膵病態内科学	Prospective long-term study of hepatitis B virus reactivation in patients with hematologic malignancy.	J Gastroenterol Hepatol. 2014; 29(9):1715-21.
30	川村 悦史	肝胆膵病態内科学	Positioning of 18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography imaging in the management algorithm of hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol Hepatol. 2014; 29(9):1722-7.
31	村上 善基	肝胆膵病態内科学	Comparison of hepatocellular carcinoma miRNA expression profiling as evaluated by next generation sequencing and microarray.	PLoS One. 2014; 9(9):e106314.
32	榎本 大	肝胆膵病態内科学	Noninvasive assessment of liver fibrosis in patients with chronic hepatitis B.	World J Gastroenterol. 2014; 20(34):12031-8.
33	村上 善基	肝胆膵病態内科学	Discovering novel direct acting antiviral agents for HBV using in silico screening.	Biochem Biophys Res Commun. 2015; 456(1):20-8.
34	田守 昭博	肝胆膵病態内科学	Effects on anemia of drug adjustment in patients with chronic hepatitis C during telaprevir-combined therapy.	Ann Hepatol. 2015; 14(1):28-35.
35	小野田 尚佳	腫瘍外科	Focused approach to ectopic mediastinal parathyroid surgery assisted by radio-guided navigation	Surgery Today 44: 533-539, 2014
36	久保 尚士	腫瘍外科	Thoracoscopic esophagectomy in the prone position versus in the lateral position for patients with esophageal cancer : A comparison of short-term surgical results	Surgical laparoscopy, endoscopy & percutaneous techniques 24: 158-163, 2014
37	久保 尚士	腫瘍外科	The impact of combined thoracoscopic and laparoscopic surgery on pulmonary complications after radical esophagectomy in patients with resectable esophageal cancer	Anticancer Research 34 :2399-2404, 2014
38	六車 一哉	腫瘍外科	Laparoscopy-assisted total gastrectomy: a simplified approach	International Surgery 99: 79-85, 2014

39	櫻井 克宣	腫瘍外科	Gastric metastasis from renal cell carcinoma with gastrointestinal bleeding: a case report and review of the literature	International Surgery 99: 86-90, 2014
40	小野田 尚佳	腫瘍外科	Establishment, characterization and comparison of seven authentic anaplastic thyroid cancer cell lines retaining clinical features of the original tumors	World Journal of Surgery 38: 688-695, 2014
41	野田 諭	腫瘍外科	Strategy of operative treatment of hyperparathyroidism using US scan and 99mTc-MIBI SPECT/CT	Endocrine Journal 61: 225-230, 2014
42	天野 良亮	腫瘍外科	A prognostic indicator for the resection of liver metastasis of colorectal cancer	Surgery Today 44: 1287-1292, 2014
43	澁谷 雅常	腫瘍外科	Significance of CEA and CA19-9 combination as a prognostic indicator and for recurrence monitoring in patients with stage II colorectal cancer	Anticancer Research 34: 3753-3758, 2014
44	高島 勉	腫瘍外科	Phase II study of S-1 in combination with trastuzumab for HER2-positive metastatic breast cancer	Anticancer Research 34: 3583-3588, 2014
45	前田 清	腫瘍外科	Low nutritional prognostic index correlates with poor survival in patients with stage IV colorectal cancer following palliative resection of the primary tumor	World Journal of Surgery 38: 1217-1222, 2014
46	森崎 珠実	腫瘍外科	Comparative proteomics analysis of gastric cancer stem cells	PLoS One 9: e110736, (Online 16pages) 2014
47	田中 浩明	腫瘍外科	Differential impact of the neutrophil-lymphocyte ratio on the survival of patients with stage IV gastric cancer	Digestive Surgery 31: 327-333, 2014
48	澁谷 雅常	腫瘍外科	Elevated preoperative serum C-reactive protein levels are associated with poor survival in patients with colorectal cancer	Hepatogastroenterology 61: 2236-2240, 2014
49	木村 健二郎	腫瘍外科	Clinical and pathological features of five-year survivors after pancreatectomy for pancreatic adenocarcinoma	World Journal of Surgical Oncology 27: 12(Online 8pages), 2014
50	小野田 尚佳	腫瘍外科	Significant cytostatic effect of everolimus on a gefitinib-resistant anaplastic thyroid cancer cell line harboring PI3KCA gene mutation	Molecular and Clinical Oncology 3: 522-526, 2015
51	澁谷 雅常	腫瘍外科	Prognostic significance of the preoperative serum C-reactive protein level in patients with stage IV colorectal cancer	Surgery Today 45: 315-321, 2015
52	野田 諭	腫瘍外科	T-stage and positive sentinel nodes ratio are the useful factors to predict non-sentinel node metastasis in breast cancer patients with macro-metastasis in the sentinel node	International Journal of Surgery 14: 56-60, 2015
53	前田 清	腫瘍外科	Efficacy of intracorporeal reinforcing sutures for anastomotic leakage after laparoscopic surgery for rectal cancer	Surgical Endoscopy 2015

54	前田 清	腫瘍外科	A preoperative low nutritional prognostic index correlates with the incidence of incisional surgical site infections after bowel resection in patients with Crohn's disease	Surgery Today2015
55	柏木 伸一郎	腫瘍外科	Ambulatory sentinel lymph node biopsy preceding neoadjuvant therapy in patients with operable breast cancer: a preliminary study	World Journal of Surgical Oncology 15: 13(Online 6pages), 2015
56	澁谷 雅常	腫瘍外科	The pretreatment albumin to globulin ratio predicts chemotherapeutic outcomes in patients with unresectable metastatic colorectal cancer	BMC Cancer 15: 347, 2015
57	天野 良亮	腫瘍外科	Pancreatectomy with major arterial resection after neoadjuvant chemoradiotherapy gemcitabine and S-1 and concurrent radiotherapy for locally advanced unresectable pancreatic cancer	Surgery 2015
58	櫻井 克宣	腫瘍外科	The outcome of surgical treatment for elderly patients with gastric carcinoma	Journal of Surgical Oncology 111: 848-854, 2015
59	橘 大介	産婦人科	Flow velocity waveforms of the ductus venosus and atrioventricular valves in a case of fetal hemangiolymphangioma.	Ultrasound Obstet Gynecol. 2015,Jan. 184. 127
60	橘 大介	産婦人科	Heavy ion radiotherapy for recurrent metastatic lung tumor during pregnancy.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2015
61	井口 広義	耳鼻咽喉科	Pleomorphic adenoma of the accessory parotid gland	Austin Journal of Otolaryngology 1 (1), 3, 2014
62	井口 広義	耳鼻咽喉科	Epithelioid myoepithelioma of the accessory parotid gland: pathological and magnetic resonance imaging findings	Case Reports in Oncology 7 (2): 310-315, 2014
63	山根 英雄	耳鼻咽喉科	Three-dimensional cone beam computed tomography imaging of the membranous labyrinth in patients with Meniere's disease	Acta Otolaryngologica 134 (10): 1016-1021, 2014
64	松下 直樹	耳鼻咽喉科	A clinical study of malignant tumors of Stensen's duct	Acta Otolaryngol 135 : 290-294, 2015
65	岩崎 進一	神経精神医学	Effects of "Shinkeishitsu" on Occupational Stress in Japanese Workers	SOJ Psychol 1巻3号 1-7ページ 2014年
66	目下 博登	神経精神医学	Psychiatric Comorbidity in Children with High-functioning Pervasive Developmental Disorder	Osaka City Med. J Vol.60,No.1 2014年
67	城後 篤志	放射線科	Factors associated with aggravation of esophageal varices after B-RTO for gastric varices.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2014.10;37(5):1243-1250.
68	竹下 徹	放射線科	Diffusion-weighted magnetic resonance imaging findings in a patient with struma ovarii.	Osaka City Med J. 2014.06;60(1):45-52.

69	濱本 晋一	放射線科	Combination Radiofrequency Ablation and Local Injection of the Immunostimulant Bacillus Calmette-Guérin Induces Antitumor Immunity in the Lung and at a Distant VX2 Tumor in a Rabbit Model.	J Vasc Interv Radiol. 2015.01;26(2):271-278.
70	末廣 浩一	麻醉科学講座	Discrepancy Between Superior Vena Cava Oxygen Saturation and Mixed Venous Oxygen Saturation Can Predict Postoperative Complications in Cardiac Surgery Patients.	Journal of Cardiothorathic and Vascular Anesthesia 28(3): 528-533, 2014
71	末廣 浩一	麻醉科学講座	Preoperative hydroperoxide concentrations are associated with a risk of postoperative complications after cardiac surgery	Anaesthesia and Intensive Care 42(4): 487-494, 2014
72	末廣 浩一	麻醉科学講座	The Vigileo-FloTrac TM System: Arterial Waveform Analysis for Measuring Cardiac Output and Predicting Fluid Responsiveness: A Clinical Review.	Journal of Cardiothorathic and Vascular Anesthesia 28(5): 1361-1374, 2014
73	末廣 浩一	麻醉科学講座	Guiding goal-directed therapy.	Current Anesthesiology Reports: 4(4):360-375, 2014
74	末廣 浩一	麻醉科学講座	The utility of intra-operative three-dimensional transoesophageal echocardiography for dynamic measurement of stroke volume.: Anaesthesia	Anaesthesia: 70(2):150-9, 2015
75	藤本 陽平	麻醉科学講座	Brain serotonin content regulates the manifestation of tramadol-induced seizures in rats: disparity between tramadol-induced seizure and serotonin syndrome.	Anesthesiology: 122(1):178-89, 2015
76	加茂 理英	皮膚科	Localization of cellular neurothekeoma with magnetic resonance microscopy imaging	J Dermatol 41(4): 369-370 2014年
77	小澤 俊幸	皮膚科	The discovery of epidermal tight junctions	Exp Dermatol 23(6): 393-394 2014年
78	小澤 俊幸	皮膚科	The role of hemidesmosomes and focal contacts in the skin visualized by dual-color live cell imaging	Med Mol Morphol. 47(4):185-188 2014年
79	鎌田 紀子	総合診療センター (消化器内科)	Efficacy of Concomitant Elemental Diet Therapy in Scheduled Infliximab Therapy in Patients With Crohn's Disease to Prevent Loss of Response.	Dig Dis Sci (2015) 60:1382-1388
80	小林 正宜	総合医学教育学 総合診療センター	Vascular Functional and Morphological Alterations in Smokers during Varenicline Therapy	Osaka City Medical Journal
81	新宅 治夫	小児科・新生児科	Sapropterin Is Safe and Effective in Patients less than 4-Years-Old with BH4-Responsive Phenylalanine Hydroxylase Deficiency.	J Pediatr 2014;165(6):1241-4.

82	瀬戸 俊之	小児科・新生児科	Twelve-year-old girl with intracranial epidural abscess and sphenoiditis.	Brain Dev. 2014;36(4):359-61.
83	佐久間 悟	小児科・新生児科	Dynamic Change in Cells Expressing IL-1 β in Rat Hippocampus after Status Epilepticus	Jpn Clin Med., 5; 25-32. 2014
84	佐久間 悟	小児科・新生児科	Increased population of oligodendroglia-like cells in pediatric intractable epilepsy	Neuroscience letters, 566; 188-193. 2014
85	尾藤康行	心臓血管外科	Successful surgical treatment of traumatic transection of the innominate artery: a case report	Ann Vasc Dis/7(2)/165-168/2014
86	尾藤康行	心臓血管外科	A surgical case of expanding bilateral coronary aneurysm regarded as immunoglobulin G4-related disease	Circulation/129/453-456/2014
87	柴田利彦	心臓血管外科	Mitral valve repair with loop technique via median sternotomy in 180 patients.	Eur J Cardiothorac Surg/74(3)491-496/2015
88	田中肖吾	肝胆膵外科	Cholangiocarcinoma in a middle-aged Ppatient working at a printing plant	Osaka City Medical Journal 60(1):39-44
89	久保正二	肝胆膵外科	Pregnancy outcomes after living donor liver transplantation: Results from a Japanese survey	Liver Transplantation 20(5): 576-583
90	久保正二	肝胆膵外科	Case-series of 17 patients with cholangiocarcinoma among young adult workers of a printing company in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 21(7):479-488
91	田中肖吾	肝胆膵外科	Management of postoperative intraabdominal abscess in laparoscopic versus open appendectomy	Osaka City Medical Journal 59(1):1-7
92	久保正二	肝胆膵外科	Changes in laboratory test results and diagnostic imaging presentation before the detection of occupational cholangiocarcinoma	Journal of Occupational Health 56(4): 317-322
93	竹村茂一	肝胆膵外科	S-allyl cysteine ameliorates the quality of sperm and provides protection from age-related sperm dysfunction and oxidative stress in rats	Journal Clinical Biochemistry and Nutrition 55(3):155-161
94	久保正二	肝胆膵外科	Characteristics of printing company workers newly diagnosed with occupational cholangiocarcinoma	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 21(11):809-817
95	久保正二	肝胆膵外科	Severe acute hepatitis in a printing company worker: A case study	Journal of Occupational Health 57(1):87-90
96	久保正二	肝胆膵外科	Re: Occupational cholangiocarcinoma	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 22(1):E2-E3

97	藤原有史	肝胆膵外科(食道)	Attention to anomalies of the right pulmonary vein in subcarinal lymph node dissection in radical esophagectomy for cancer	Esophagus 2014年 DOI 10.1007/s10388-014-0445-5
98	東山滋明	核医学	Usefulness of three-phase bone scintigraphy and SPECT/CT for the diagnosis of bone lesions of systemic sarcoidosis	Asia Oceania J Nucl Med Biol 2:69-72,2014
99	小谷晃平	核医学	Diagnostic ability of 99mTc-HSA-DTPA scintigraphy in combination with SPECT/CT for gastrointestinal bleeding.	Clin Nucl Med 39:677-684,2014
100	東山滋明	核医学	Illustration of protein loss from the stomach by using SPECT/CT: a case of menetrier disease.	Clin Nucl Med 39:906-907,2014
101	河邊讓治	核医学	131I abnormal uptake by the thyroid bed from zuckerandl tubercle diagnosis by 131I SPECT/CT	Clin Nucl Med 40:275-277,2015
102	江原省一	循環器内科	Characteristic patterns of the longitudinal and circumferential distribution of calcium deposits by parent coronary arteries observed from computed tomography angiography.	Heart Vessels. 2015 Feb 25.
103	杉岡憲一	循環器内科	Relationship between CHADS2 score and complex aortic plaques by transesophageal echocardiography in patients with nonvalvular atrial fibrillation.	Ultrasound Med Biol. 2014 Oct;40(10):2358-64.
104	永見 康明	消化器内科学	Clinical efficacy of endoscopic submucosal dissection for adenocarcinoma of the esophagogastric junction	Endoscopy International Open
105	富永 和作	消化器内科学	A randomized, placebo-controlled, double-blind clinical trial of rikkunshito for patients with non-erosive reflux disease refractory to proton-pump inhibitor: the G-PRIDE study.	J Gastroenterol. 2014 Feb 18. [Epub ahead of print]
106	永見 康明	消化器内科学	Usefulness of non-magnifying narrow band imaging in screening of early esophageal squamous cell carcinoma: A prospective comparative study using propensity score matching	Am J Gastroenterol. 2014 Jun;109(6):845-54.
107	渡辺 俊雄	消化器内科学	Anti-tumour necrosis factor agents reduce non-steroidal anti-inflammatory drug-induced small bowel injury in rheumatoid arthritis patients.	Gut. 2014 Mar;63(3):409-14.
108	渡辺 俊雄	消化器内科学	Toll-like receptor 2 mediates ischemia-reperfusion injury of the small intestine in adult mice.	PLoS One. 2014 Oct 16;9(10):e110441.
109	鎌田 紀子	消化器内科学	Efficacy of Concomitant Elemental Diet Therapy in Scheduled Infliximab Therapy in Patients with Crohn's Disease to Prevent Loss of Response.	Dig Dis Sci. 2014 Dec 23. [Epub ahead of print]
110	藤原 靖弘	消化器内科学	Characteristics of nighttime reflux assessed using multichannel intraluminal impedance pH monitoring and a portable electroencephalograph.	Dis Esophagus. 2015 Jan 21.

111	渡辺 俊雄	消化器内科学	A multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of high-dose rebamipide treatment for low-dose aspirin-induced moderate-to-severe small intestinal damage	PLoS One, in press
112	藤原 靖弘	消化器内科学	Association between Chronic Use of Proton Pump Inhibitors and Small-Intestinal Bacterial Overgrowth Assessed using Lactulose Hydrogen Breath Tests	Hepatogastroenterology. 2015 Mar-Apr;62(138):268-72.
113	藤原 靖弘	消化器内科学	Overlap in patients with dyspepsia/functional dyspepsia.	J Neurogastroenterol Motil. 2014 Oct 30;20(4):447-57.
114	細見 周平	消化器内科学	Role of endoplasmic reticulum stress and autophagy as interlinking pathways in the pathogenesis of inflammatory bowel disease.	Curr Opin Gastroenterol. 2015 Jan;31(1):81-8
115	富永 和作	消化器内科学	Clinical application of kampo medicine (rikkunshito) for common and/or intractable symptoms of the gastrointestinal tract.	Front Pharmacol.30;6:7. doi:10.3389/fphar.2015.00007.

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	溝端 康光	救急医学	外傷初期診療におけるチームアプローチ	救急医学、第38巻第13号 1679-1682
2	溝端 康光	救急医学	Damage control surgery:理論的背景と実際	救急・集中治療 第26巻 第7・8号 995-1002
3	後藤 剛夫	脳神経外科	頭蓋咽頭腫に対する手術到達法選択の重要性	脳神経外科ジャーナル 231: 12-19, 2014
4	高見 俊宏	脳神経外科	脊椎脊髄腫瘍:脊椎腫瘍・脊髄髄外腫瘍	脳神経外科 423: 269-285, 2014
5	高見 俊宏	脳神経外科	脊髄髄内腫瘍に対する化学療法	脊椎脊髄ジャーナル 274: 377-381, 2014
6	内藤 堅太郎	脳神経外科	頸椎変性疾患に対するボックス型チタンケージ単独椎間固定の画像評価	日本脊髄障害医学会誌 271: 64-65, 2014
7	内藤 堅太郎	脳神経外科	Cortical bone trajectory法による腰椎後方固定術の初期経験:術後CTによるスクリュー先端の逸脱率の検討	Journal of Spine Research 5: 1103-1107, 2014

8	内藤 堅太郎	脳神経外科	脊髄円椎近傍腫瘍の臨床的特徴	日本脊髄障害医学会誌 271: 130-131, 2014
9	高見 俊宏	脳神経外科	小児期の頭蓋底陥入症	小児の脳神経 38: 450-457, 2014
10	山中 一浩	脳神経外科	Central neurocytomaのガンマナイフ治療 全国調査報告(JLKG 1201 study)	定位的放射線治療 18: 177-184, 2014
11	森迫 拓貴	脳神経外科	大型石灰化を伴う頭蓋咽頭腫に対する手術	日本内分泌学会雑誌 90: 49-51, 2014
12	間中 智哉	整形外科	習慣性肩関節後方脱臼に対する関節鏡視 下手術の術後臨床成績	肩関節 38(2) 464-467 (2014年10月)
13	間中 智哉	整形外科	JuggerKnot TM ソフトアンカーによる鏡視 下腱板修復術後のMRI評価	肩関節 38(2) 528-531 (2014年10月)
14	橋本祐介	整形外科	円板状半月形成術後のMRIを用いた半月 形態と内部変化の検討	JOSKAS39(1)206-207 2014
15	橋本 祐介	整形外科	二重東前十字靭帯再建術後MRI評価と前 方不安定性の関係	JOSKAS39(1)88-89 2014
16	上村 卓也	整形外科	小児肘関節脱臼の治療	関節外科 33巻8号 Page849-858(2014.08)
17	上村 卓也	整形外科	末梢神経の再生医療 マウスモデルにお けるiPS細胞ハイブリッド型人工神経の長期 成績と安全性	日本手外科学会雑誌 31巻2号 Page101-105(2014.11)
18	上村 卓也	整形外科	再生医療を用いた神経再生 iPS細胞ハイ ブリッド型人工神経による末梢神経再生	末梢神経 25巻2号 Page220-225(2014.12)
19	星 学	整形外科	Fertility following treatment of high-grade malignant bone and soft tissue tumors in young adults.	Mol Clin Oncol. 2015 Mar;3(2):367-374
20	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	Data from the Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study validate an association between high intravenous iron doses and mortality.	Kidney Int. 2015;87(1):162-168.
21	絵本 正憲	代謝内分泌病態内科学・公 衆衛生学	Immunogenicity of influenza A(H1N1)pdm09 vaccine in patients with diabetes mellitus: with special reference to age, body mass index, and HbA1c.	Hum. Vaccin. Immunother. 2014;10(5):1187-1194.
22	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	Effects of nutritional supplementation on fatigue, and autonomic and immune dysfunction in patients with end-stage renal disease: a randomized, double-blind, placebo-controlled, multicenter trial.	PLoS One. 2015;10(3):e0119578.
23	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	A new Classification of Diabetic Nephropathy 2014: a report from Joint Committee on Diabetic Nephropathy.	J Diabetes Investig. 2015;6(2):242-246.
24	森岡 与明	代謝内分泌病態内科学	Plasma polyunsaturated fatty acid profile and delta-5 desaturase activity are altered in patients with type 2 diabetes.	Metabolism. 2014;63(11):1432-1438.

25	絵本 正憲	代謝内分泌病態内科学	Response to comment on Imamura et al. Plasma polyunsaturated fatty acid profile and delta-5 desaturase activity are altered in patients with type 2 diabetes.	Metabolism. 2015;64(4):e3-4.
26	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	Plasma brain-derived neurotrophic factor and reverse dipping pattern of nocturnal blood pressure in patients with cardiovascular risk factors.	PLoS One. 2014;9(8):e105977.
27	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	Sleep, cardiac autonomic function, and carotid atherosclerosis in patients with cardiovascular risks: HSCAA study.	Atherosclerosis. 2015;238(2):409-414.
28	塩井 淳	老年血管病態学・代謝内分泌病態内科学	Oncostatin M Promotes Osteoblastic Differentiation of Human Vascular Smooth Muscle Cells Through JAK3-STAT3 Pathway.	J. Cell. Biochem. 2015;116(7):1325-1333.
29	絵本 正憲	代謝内分泌病態内科学	Comparison of effects of pioglitazone and glimepiride on plasma soluble RAGE and RAGE expression in peripheral mononuclear cells in type 2 diabetes: randomized controlled trial (PioRAGE).	Atherosclerosis. 2014;234(2):329-334.
30	石村 栄治	腎臓病態内科学・代謝内分泌病態内科学	Serum beta2-microglobulin correlates positively with left ventricular hypertrophy in long-term hemodialysis patients.	Nephron Clin. Pract. 2014;128(1-2):101-106.
31	庄司 哲雄	老年血管病態学・代謝内分泌病態内科学	Matsufuji S, Shoji T, Yano Y, et al. Effect of chair stand exercise on activity of daily living: a randomized controlled trial in hemodialysis patients.	J. Ren. Nutr. 2015;25(1):17-24.
32	元山 宏華	代謝内分泌病態内科学	Decreased cortical thickness, as estimated by a newly developed ultrasound device, as a risk for vertebral fracture in type 2 diabetes mellitus patients with eGFR of less than 60 mL/min/1.73 m ² .	Osteoporos. Int. 2015;26(1):229-236.
33	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	Increased undercarboxylated osteocalcin/intact osteocalcin ratio in patients undergoing hemodialysis.	Osteoporos. Int. 2015;26(3):1053-1061.
34	石村 栄治	腎臓病態内科学・代謝内分泌病態内科学	Poor glycemic control and decreased renal function are associated with increased intrarenal RAS activity in Type 2 diabetes mellitus. Diabetes Res.	Clin. Pract. 2014;105(1):40-46.
35	石村 栄治	腎臓病態内科学・代謝内分泌病態内科学	Effect of corticosteroid therapy on renal pathology in IgG4-related kidney disease accompanying glomerulonephritis.	Nephrology (Carlton). 2014;19(7):436-437.
36	石村 栄治	腎臓病態内科学・代謝内分泌病態内科学	Successful Treatment of Hepatitis B Virus-associated Membranous Nephropathy with Entecavir and Immunosuppressive Agents.	Nephrology (Carlton). 2014;19(9):595-596.
37	今西 康雄	代謝内分泌病態内科学	Clinical efficacy of oral risedronate therapy in Japanese patients with Paget's disease of bone.	J. Bone Miner. Metab. 2014.
38	福本 真也	先端予防医学・代謝内分泌病態内科学	Injectable cell scaffold restores impaired cell-based therapeutic angiogenesis in diabetic mice with hindlimb ischemia.	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2014;454(1):119-124.

39	石村 栄治	腎臓病態内科学・薬効安全性学・代謝内分泌病態内科学	Myeloid HIF-1 attenuates the progression of renal fibrosis in murine obstructive nephropathy.	J. Pharmacol. Sci. 2015;127(2):181-189.
40	森 克仁	代謝内分泌病態内科学	Advantage of insulin glulisine over regular insulin in patients with type 2 diabetes and severe renal insufficiency.	J. Ren. Nutr. 2015;25(2):129-134.
41	津田 昌宏	代謝内分泌病態内科学・腎臓病態内科学	Significant association between glycemic status and increased estimated postglomerular resistance in nondiabetic subjects - study of inulin and para-aminohippuric acid clearance in humans.	Physiol Rep. 2015;3(3).
42	古山 将康	産婦人科	Characteristic differences and reference ranges for mitral, tricuspid, aortic, and pulmonary Doppler velocity waveforms during fetal life.	Prenat Diagn. 2015 Mar;35(3):236-43.
43	橘 大介	産婦人科	Pathological findings in a case of failed uterine artery embolization for placenta previa.	Jpn Clin Med. 2013 Apr 14;4:25-8.
44	橘 大介	産婦人科	Alterations of time-intervals of the ductus venosus and atrioventricular flow velocity waveforms in growth restricted fetuses.	Ultrasound Obstet Gynecol. 2014 Nov 4.
45	角 俊幸	産婦人科	Sirtuin1 expression predicts the efficacy of neoadjuvant chemotherapy for locally advanced uterine cervical cancer.	Mol Clin Oncol. 2015 Jan;3(1):73-78.
46	角 俊幸	産婦人科	Minimal deviation mucinous adenocarcinoma of the uterine cervix that proved difficult to differentiate from endometrial cancer: A case report.	Oncol Lett. 2014 Dec;8(6):2481-2484.
47	福田 武史	産婦人科	Comparison of outcomes between squamous cell carcinoma and adenocarcinoma in patients with surgically treated stage I-II cervical cancer.	Mol Clin Oncol. 2014 Jul;2(4):518-524.
48	市村 友季	産婦人科	Preoperative diagnosis of usual leiomyoma, atypical leiomyoma, and leiomyosarcoma.	Sarcoma. 2014
49	市村 友季	産婦人科	Primitive neuroectodermal tumor originating in the vulva: A case report.	Oncol Lett. 2014 Jul;8(1):187-189.
50	橘 大介	産婦人科	A case of fetal intestinal volvulus without malrotation causing severe anemia.	Jpn Clin Med. 2015 Jan 5;6:1-3.
51	井上 幸紀	神経精神医学	アルコール依存症と精神疾患-職場で留意すべき点	産業医学ジャーナル 37巻 10-14 ページ 2014年
52	井上 幸紀	神経精神医学	産業精神医学 (特集:一般内科診療で役立つうつ病の知識-こころの問題にどう対応するか)	内科 115巻2号 245-248ページ 2015年
53	山内 常生	神経精神医学	骨粗鬆症のための栄養処方「摂食障害と骨」	骨粗鬆症治療 14巻1号 22-28ページ 2015年

54	山内 常生	神経精神医学	摂食障害と就労ストレス	心身医学 54巻10号 928-934ページ 2014年
55	出口 裕彦	神経精神医学	うつ病に対する早期の気づき、早期対応、 早期診断について	Depression Frontier 13巻1号 34-39 ページ 2015年
56	濱本 晋一	放射線科	Effective palliative radiofrequency ablation for tumors causing pain, numbness and motor function disorders: case series.	BMC Res Notes. 2014.10;7(1):765.
57	竹下 徹	放射線科	Pneumobilia, an unusual presentation of strongyloidiasis: a case report.	Japanese Journal of Diagnostic Imaging 2014.09;32(2):119- 124.
58	鶴田 大輔	皮膚科	4-(4-hydroxyphenyl)-2-butanol (rhododendrol) activates the autophagy- lysosome pathway in melanocytes: insights into the mechanisms of rhododendrol -induced leukoderma	J Dermatol Sci. 77(3):182-185 2015年
59	鶴田 大輔	皮膚科	An immune pathological and ultrastructural skin analysis for rhododendrol-induced leukoderma patients	J Dermatol Sci. 77(3):185-188 2015年
60	鶴田 大輔	皮膚科	Effects on anemia of drug adjustment in patients with chronic hepatitis C during telaprevir-combined therapy	Ann Hepatol. 14(1):28-35 2015年
61	鶴田 大輔	皮膚科	Epidermal polymeric immunoglobulin receptors: leads from intraepidermal neutrophilic IgA dermatosis-type IgA pemphigus	Exp Dermatol. 24(3):217-219 2015年
62	鶴田 大輔	皮膚科	Development of terminal hairs following the treatment of pigmented nevus with vellus hairs by Q-switched alexandrite laser	J Dermatol. 2014 Dec;41(12):1115- 1116
63	鶴田 大輔	皮膚科	Anti-laminin γ 1 pemphigoid associated with pustular psoriasis	Eur J Dermatol. 24(5):629-630 2014年
64	鶴田 大輔	皮膚科	Plaque type herpetic folliculitis involving the eccrine gland: immunohistochemical analysis	J Dermatol. 41(7):652-653 2014年
65	鶴田 大輔	皮膚科	Oesophageal involvement in epidermolysis bullosa acquisita	Br J Dermatol. 172(1):288-290 2015年
66	鶴田 大輔	皮膚科	B-cell activating factor detected on both naïve and memory B cells in bullous pemphigoid	Exp Dermatol. 23(8):596-605 2014年
67	鶴田 大輔	皮膚科	Distinct protein expression and activity of transglutaminases found in different epidermal tumors	Exp Dermatol. 23(6):433-435 2014年
68	鶴田 大輔	皮膚科	Mouse bone marrow-derived dendritic cells can phagocytize the <i>Sporothrix</i> <i>schenckii</i> , and mature and activate the immune response by secreting interleukin- 12 and presenting antigens to T lymphocytes	J Dermatol. 41(5):386-392 2014年

69	鶴田 大輔	皮膚科	Case of trichomycosis axillaris caused by <i>Corynebacterium propinquum</i>	J Dermatol. 41(5):467-469 2014年
70	鶴田 大輔	皮膚科	Characterization of two cases of bullous pemphigoid reactive only with BP230 on Japanese enzyme-linked immunosorbent assays	Acta Derm Venereol. 94(6):734-736 2014年
71	鶴田 大輔	皮膚科	Late-onset Brooke-Spiegler syndrome with family histories of various cancers	J Dermatol. 41(5):454-456 2014年
72	鶴田 大輔	皮膚科	Clinical and immunological profiles in 17 Japanese patients with drug-induced pemphigus studied at Kurume University	Br J Dermatol. 171(3):544-553 2014年
73	鶴田 大輔	皮膚科	Diagnosis of oral mucous membrane pemphigoid by means of combined serologic testing	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 117(4):483-496 2014年
74	鶴田 大輔	皮膚科	Molluscum contagiosum with CD30+ cell infiltration in a patient with mycosis fungoides	Am J Dermatopathol. 36(8):685-687 2014年
75	鶴田 大輔	皮膚科	A typical case of paraneoplastic pemphigus without detection of malignancy : effectiveness of plasma exchange	Acta Derm Venereol. 94(3):359-361 2014年
76	深井 和吉	皮膚科	Variants in melanogenesis-related genes associate with skin cancer risk among Japanese populations	J Dermatol. 41(4):296-302 2014年
77	深井 和吉	皮膚科	Nevus depigmentosus with pale skin, yellow-brown hair and a light brown iris	Eur J Dermatol. 24(3):406-407 2014年
78	菅原 弘二	皮膚科	Cannabidiol exerts sebostatic and antiinflammatory effects on human sebocytes	J Clin Invest. 124(9):3713-3724 2014年
79	小澤 俊幸	皮膚科	Role of Notch Signaling in the Maintenance of Human Mesenchymal Stem Cells Under Hypoxic Conditions	Stem Cells Dev. 23(18):2211-2224 2014年
80	小澤 俊幸	皮膚科	Comparison of ultrasonography-assisted closed reduction with conventional closed reduction for the treatment of acute nasal fractures	J Plast Reconstr Aesthet Surg. Aesthetic Surgery 67(10):1387-1392 2014年
81	鶴田 大輔	皮膚科	Combination therapy of fexofenadine and montelukast is effective in prurigo nodularis and pemphigoid nodularis	Dermatol Ther. 27(3):135-139 2014年
82	鶴田 大輔	皮膚科	Case of malignant melanoma with a clinically obvious bulla in a Japanese patient	J Dermatol. 41(12):1124-1126 2014年
83	鶴田 大輔	皮膚科	Photodynamic therapy using systemic administration of 5-aminolevulinic acid and a 410-nm wavelength light-emitting diode for methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> -infected ulcers in mice	PLoS One. 20:9(8):e105173 2014年

84	深井 和吉	皮膚科	IL36RN gene analysis of two Japanese patients with generalized pustular psoriasis	Int J Dermatol. 54(2):e60-62 2015年
85	深井 和吉	皮膚科	Percutaneous cardiopulmonary support as a possible risk factor for symmetrical peripheral gangrene of the toes	J Dermatol. 41(12):1130-1131 2014年
86	瀬戸 俊之 新宅 治夫	小児科・新生児科	Relationship between Severity of Aseptic Meningitis and Cerebrospinal Fluid Cytokine Levels.	Osaka City Medical Journal, 2015, in press
87	徳原 大介	小児科・新生児科	Hepatic focal nodular hyperplasia with congenital portosystemic shunt	Pediatric International 56巻6号:e102-105: 2014年
88	徳原 大介	小児科・新生児科	Role of per-rectal portal scintigraphy in long-term follow-up of congenital portosystemic shunt	Pediatric Research, 75巻5号;P658-662; 2014年
89	服部 妙香 濱崎 考史 新宅 治夫	小児科・新生児科	Glucocorticoids promote neural progenitor cell proliferation derived from human induced pluripotent stem cells.	Springerplus. 2014;15(3):527.
90	野村 志保 新宅 治夫	小児科・新生児科	Role of levothyroxine supplementation in extremely low birth weight infants who have transient hypothyroidism without thyroid-stimulating hormone elevation.	Osaka City Med J. 2014;60(1):29-37.
91	佐久間 悟 徳原 大介 新宅 治夫	小児科・新生児科	Dynamic Change in Cells Expressing IL-1 β in Rat Hippocampus after Status Epilepticus.	Jpn Clin Med. 2014;13(5):25-32.
92	新宅 治夫	小児科・新生児科	Biased hypermutation occurred frequently in a gene inserted into the IC323 recombinant measles virus during its persistence in the brains of nude mice.	Virology. 2014;462-463:91-7.
93	新宅 治夫	小児科・新生児科	Radiofrequency catheter ablation of idiopathic left anterior fascicular ventricular tachycardia in children.	Heart Rhythm. 2014 ;11(11):1948-56.
94	新宅 治夫	小児科・新生児科	PET imaging analysis with ⁶⁴ Cu in disulfiram treatment for aberrant copper biodistribution in Menkes disease mouse model.	J Nucl Med. 2014 ;55(5):845-51.

95	新宅 治夫	小児科・新生児科	Effects of atorvastatin, amlodipine, and their combination on vascular dysfunction in insulin-resistant rats.	J Pharmacol Sci. 2014;124(1):76-85.
96	新宅 治夫	小児科・新生児科	A nationwide survey of Aicardi-Goutières syndrome patients identifies a strong association between dominant TREX1 mutations and chilblain lesions: Japanese cohort study.	Rheumatology 2014;53(3):448-58.
97	新宅 治夫	小児科・新生児科	Differentiating fasciculoventricular pathway from Wolff-Parkinson-White syndrome by electrocardiography.	Heart Rhythm. 2014;11(4):686-90.
98	新宅 治夫	小児科・新生児科	Early replacement therapy in a first Japanese case with autosomal recessive guanosine triphosphate cyclohydrolase I deficiency with a novel point mutation.	Brain Dev. 2014;36(3):268-71.
99	新宅 治夫	小児科・新生児科	Early replacement therapy in a first Japanese case with autosomal recessive guanosine triphosphate cyclohydrolase I deficiency with a novel point mutation.	Brain Dev. 2014;36(3):268-72.
100	新宅 治夫	小児科・新生児科	Clinical characteristics of epileptic seizures in a case of dihydropteridine reductase deficiency.	Epilepsy & Behavior Case Reports 2. 2014. 37-39
101	細野光治	心臓血管外科	Preoperative increasing C-reactive protein affects the outcome for active infective endocarditis	Ann Thorac Cardiovasc Surg/20(1)/48- 54/2014
102	細野光治	心臓血管外科	心大血管手術時の手術部位感染発生に対する危険因子 -抗菌薬使用と周術期諸因子に関する検討-	日本感染症雑誌 /11(1)/29-34/2014
103	細野光治	心臓血管外科	ステント留置後5年目に発症した外腸骨動脈破綻を伴った腸腰筋膿瘍の1例	日本感染症雑誌 /11(1)/77-80/2014
104	細野光治	心臓血管外科	肝機能障害患者における冠動脈バイパス術	冠疾患誌 /20(2)/164- 167/2014
105	柴田利彦	心臓血管外科	Enhanced expression of hemoglobin scavenger receptor and heme oxygenase-1 is associated with aortic valve stenosis in patients undergoing hemodialysis.	Hemodial Int/18/632- 640/2014
106	柴田利彦	心臓血管外科	心臓血管外科医の心疾患のここを評価してほしい！-こんなTEE評価がほしかった！	心エコー /15(7)/674- 680/2014

107	柴田利彦	心臓血管外科	Evaluation of Aortic Valve Replacement via the Right Parasternal Approach without Rib Removal.	Ann Thorac Cardiovasc Surg/21(2)139-145/2014
108	柴田利彦	心臓血管外科	Mitral valve repair without mitral annuloplasty with extensive mitral annular calcification	Interact Cardiovasc Thorac Surg/19(6)/1080-1082/2014
109	柴田利彦	心臓血管外科	Modified commissural patch repair in a child with active mitral endocarditis.	Asian Cardiovasc Thorac Ann/2014
110	柴田利彦	心臓血管外科	Rupture of equine pericardial aortic-root patch after aortic valve replacement with aortic annulus enlargement: a case report	J Cardiothorac Surg/9(1)/2-4/2014
111	柴田利彦	心臓血管外科	Successful surgical treatment for total circumferential aortic and mitral annulus calcification: application of half-and-half technique.	Gen Thorac Cardiovasc Surg/2014
112	久保正二 竹村茂一	肝胆膵外科	Surgical treatment for intrahepatic cholangiocarcinoma	Clinical Journal of Gastroenterology 7(2):87-93
113	竹村茂一	肝胆膵外科	Phase I study of adjuvant chemotherapy with gemcitabine plus cisplatin in patients with biliary tract cancer undergoing curative resection without major hepatectomy (KHBO1004)	Cancer Chemotherapy and Pharmacology 73(6):1295-1301
114	竹村茂一	肝胆膵外科	Comparative outcomes of elderly and non-elderly patients receiving first-line palliative chemotherapy for advanced biliary tract cancer	Journal of Gastroenterology and Hepatology 29(2):403-408
115	竹村茂一	肝胆膵外科	Patients with recurrent biliary tract cancer have a better prognosis than those with unresectable disease: retrospective analysis of a multi-institutional experience with patients of advanced biliary tract cancer who received palliative chemotherapy	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 21(2):98-104
116	久保正二	肝胆膵外科	Proposal of a new staging system for mass-forming intrahepatic cholangiocarcinoma: a multicenter analysis by the Study Group for Hepatic Surgery of the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic surgery	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 21(7):499-508
117	久保正二	肝胆膵外科	Different carcinogenic process in cholangiocarcinoma cases epidemically developing among workers of a printing company in Japan	International Journal of Clinical and Experimental Pathology 7(8):4745-4754
118	久保正二 竹村茂一	肝胆膵外科	Do patients with small solitary hepatocellular carcinomas without macroscopically vascular invasion require anatomic resection?: Propensity score analysis	Surgery 157(1):27-36

119	久保正二	肝胆膵外科	The long-term outcomes after curative resection for mass-forming intrahepatic cholangiocarcinoma associated with hepatitis C viral infection: a multicenter analysis by Osaka Hepatic Surgery Study Group	Journal of Surgical Oncology 110(2):176-181
120	久保正二 竹村茂一	肝胆膵外科	Adjuvant S-1 chemotherapy after surgical resection for pancreatic adenocarcinoma	Hepatogastroenterology 62(137):169-174
121	久保正二 竹村茂一	肝胆膵外科	Phase I study of adjuvant gemcitabine or S-1 in patients with biliary tract cancers undergoing major hepatectomy: KHBO1003 study	Cancer Chemotherapy and Pharmacology 74(4):699-709
122	久保正二	肝胆膵外科	Late-onset bile leakage after hepatic resection	Surgery 157(1):37-44
123	久保正二	肝胆膵外科	Higher complication rate in hepatocellular carcinoma patients undergoing prophylactic cholecystectomy with curative hepatic resection	Hepatogastroenterology 61(135):2028-2034
124	久保正二	肝胆膵外科	開腹脾臓摘出術	消化器外科 37(5):951-953
125	久保正二	肝胆膵外科	胆管癌におけるトピックス ー印刷事業場での胆管癌集中発生を含めてー	胆膵の病態生理 30(1):1-4
126	久保正二 竹村茂一 田中肖吾	肝胆膵外科	エビデンスの検証とガイドライン 肝癌に対する肝切除	外科 76(8):848-851
127	久保正二 竹村茂一	肝胆膵外科	C型肝炎IFN著効後に診断された肝細胞癌と胆管細胞癌の同時性重複癌の1例	日本臨床外科学会雑誌 75(8):2360-2365
128	久保正二	肝胆膵外科	印刷会社勤務歴を有する肝内胆管癌の1例	胆道 28(4):696-702
129	久保正二 竹村茂一 田中肖吾	肝胆膵外科	印刷労働者に多発した胆管癌	胆道 28(5):763-771
130	久保正二 竹村茂一	肝胆膵外科	切除可能大腸癌肝転移症例に対する術前化学療法の意義に関する多施設共同研究	癌の臨床 60(5):503-508
131	久保正二	肝胆膵外科	印刷事業場で多発した胆管癌の病理学的特徴と推定発癌メカニズム	肝胆膵 69(6):1079-1085
132	久保正二 竹村茂一 田中肖吾	肝胆膵外科	腹腔鏡下外側区域切除術・部分切除術	消化器外科 38(4):495-502
133	久保正二	肝胆膵外科	職業性胆管癌	Hepatology practice 第5巻 肝癌の診療を極める 基本から最前線まで 書籍:32-33

134	岸田 哲	肝胆膵外科(食道)	胸腔鏡下食道癌切除における術後感染 - 術後肺炎と開胸創手術部位感染-	日本外科感染症学会雑誌 11巻4号 285-293. 2014年
135	大杉治司	肝胆膵外科(食道)	Radical lymphadenectomy in esophageal cancer: from the past to the present	Diseases of the esophagus 28,1:68-77, 2015
136	李 榮柱	肝胆膵外科(食道)	Cytomegalovirus-associated ulceration of gastric conduit after chemoradiotherapy following esophagectomy for cancer	Esophagus 2014年 DOI 10.1007/s10388-014-0441-9
137	西山典利 泉 信博 水口真二郎	呼吸器外科	Pulmonary sequestration presenting elevated CA19-9 and CA125 with ovarian cysts.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2014 doi:10.5761/atcs.cr.13-00219
138	西山典利 泉 信博 水口真二郎	呼吸器外科	Clinical value of exogenous factor XIII for prolonged air leak following pulmonary lobectomy: a case control study	BMC Surgery 2014 doi:10.1186/1471-2482-14-109
139	藤原 靖弘	消化器内科学	Role of small intestinal bacterial overgrowth in severe small intestinal damage in chronic non-steroidal anti-inflammatory drug users.	Scand J Gastroenterol. 2014 Mar;49(3):267-73.
140	藤原 靖弘	消化器内科学	A questionnaire-based survey on the diagnosis and management of inflammatory bowel disease in East asian countries in 2012.	Digestion. 2014;89(1):88-103.
141	荒川 哲男	消化器内科学	Use of capsule endoscopy in patients with Crohn's disease in Japan: a multicenter survey.	J Gastroenterol Hepatol. 2014;29:96-101
142	富永 和作	消化器内科学	The prevalence of adverse events associated with double-balloon enteroscopy from a single-centre dataset in Japan.	Dig Liver Dis. 2014 Aug;46(8):706-9
143	山上 博一	消化器内科学	Infliximab and/or immunomodulators inhibit immune responses to trivalent influenza vaccination in adults with inflammatory bowel disease.	J Crohns Colitis. 2014 Mar;8(3):223-33.
144	荒川 哲男	消化器内科学	Odd-skipped related 1 is a novel tumour suppressor gene and a potential prognostic biomarker in gastric cancer.	J Pathol. 2014 Nov;234(3):302-15.
145	藤原 靖弘	消化器内科学	Acid reflux directly causes sleep disturbances in rat with chronic esophagitis.	PLoS One. 2014 Sep 12;9(9):e106969.
146	藤原 靖弘	消化器内科学	Intra-gastric pH following single oral administrations of rabeprazole and esomeprazole: double-blind cross-over comparison.	J Clin Biochem Nutr. 2014 Nov;55(3):178-83.
147	渡邊 俊雄	消化器内科学	Tumor Necrosis Factor α Decreases Glucagon-Like Peptide-2 Expression by Up-Regulating G-Protein-Coupled Receptor 120 in Crohn Disease.	Am J Pathol. 2015 Jan;185(1):185-96.

148	鎌田 紀子	消化器内科学	Efficacy of Concomitant Elemental Diet Therapy in Scheduled Infliximab Therapy in Patients with Crohn's Disease to Prevent Loss of Response.	Dig Dis Sci. 2014 Dec 23. [Epub ahead of print]
149	藤原 靖弘	消化器内科学	Characteristics of nighttime reflux assessed using multichannel intraluminal impedance pH monitoring and a portable electroencephalograph.	Dis Esophagus. 2015 Jan 21.
150	荒川 哲男	消化器内科学	Randomised clinical trial: prevention of recurrence of peptic ulcers by rabeprazole in patients taking low-dose aspirin.	Aliment Pharmacol Ther. 2014 Oct;40(7):780-95.
151	富永 和作	消化器内科学	Clinical characteristics of elderly patients with proton pump inhibitor-refractory non-erosive reflux disease from the G-PRIDE study who responded to rikkunshito.	BMC Gastroenterol. 2014 Jul 2;14:116.
152	荒川 哲男	消化器内科学	Survey of clinical practice for irritable bowel syndrome in East asian countries.	Digestion. 2015;91(1):99-109.
153	山上 博一	消化器内科学	Booster influenza vaccination does not improve immune response in adult inflammatory bowel disease patients treated with immunosuppressives: a randomized controlled trial.	J Gastroenterol. 2015
154	山上 博一	消化器内科学	Effects of oral tacrolimus as a rapid induction therapy in ulcerative colitis.	World J Gastroenterol. 2015 Feb 14;21(6):1880-6.
155	藤原 靖弘	消化器内科学	Associations between endoscopic findings and functional assessment via multichannel intraluminal impedance-pH monitoring in patients with non-erosive reflux disease refractory to proton-pump inhibitors	Esophagus (in press)
156	藤原 靖弘	消化器内科学	Association between Chronic Use of Proton Pump Inhibitors and Small-Intestinal Bacterial Overgrowth Assessed using Lactulose Hydrogen Breath Tests	Hepatogastroenterology. 2015 Mar-Apr;62(138):268-72.
157	藤原 靖弘	消化器内科学	Effects of Esomeprazole on Sleep in Patients with Gastroesophageal Reflux Disease as Assessed on Actigraphy	Internal Medicine (in press)
158	藤原 靖弘	消化器内科学	Basophil infiltration of eosinophilic esophagitis and proton pump inhibitor-responsive esophageal eosinophilia	Aliment Pharmacol Ther. 2015
159	山上 博一	消化器内科学	Patients' assessment of adalimumab self-injection for Crohn's disease: a multicenter questionnaire survey (The PEARL Survey).	Hepatogastroenterology 61(134):1654-60

160	鎌田 紀子	消化器内科学	A preoperative low nutritional prognostic index correlates with the incidence of incisional surgical site infections after bowel resection in patients with Crohn's disease.	Surg Today (in press)
161	山上 博一	消化器内科学	Pre-illness isoflavone consumption and disease risk of ulcerative colitis: a multicenter case-control study in Japan.	PLoS One. 2014 Oct 14;9(10):e110270.
162	富永 和作	消化器内科学	Efficacy and safety of 1-week Helicobacter pylori eradication therapy and 7-week rebamipide treatment after endoscopic submucosal dissection of early gastric cancer in comparison with 8-week PPI standard treatment: a randomized, controlled, prospective, multicenter study.	Gastric Cancer. 2014 Aug 7.
163	大澤 政彦	病理診断科	A case of anti-N-methyl-d-aspartate receptor encephalitis with multiple sclerosis-like demyelinated lesions.	Mult Scler Relat Disord. 2014 May;3(3):391-7.
164	大澤 政彦	病理診断科	Reactive lymphoid hyperplasia of the thyroid followed by systemic autoimmune diseases: a case report.	J Med Case Rep. 2014 Jul 8;8:247.
165	大澤 政彦	病理診断科	Cholangiocarcinoma in a middle-aged patient workig at a printing plant.	Osaka City Med J. 2014 Jun;60(1):39-44.
166	大澤 政彦	病理診断科	Diffuse large B-cell lymphoma with hemolytic crisis developed twenty years after the onset of Evans syndrome.	Rinsho Ketsueki. 2014 May;55(5):546-51.
167	大澤 政彦	病理診断科	A case of malignant melanoma metastasis to the mammary gland.	Gan To Kagaku Ryoho. 2014 Nov;41(12):1939-41.
168	大澤 政彦	病理診断科	Four cases of malignant primary breast lymphoma.	Gan To Kagaku Ryoho. 2014 Nov;41(12):1942-4.
169	大澤 政彦	病理診断科	Carbonic anhydrase 9 is associated with chemosensitivity and prognosis in breast cancer patients treated with taxane and anthracycline.	BMC Cancer. 2014 Jun 4;14:400.
170	大澤 政彦	病理診断科	Clinical impact of the extent of lymph node micrometastasis in undifferentiated-type early gastric cancer.	Oncology. 2014;86(4):244-52. Epub 2014 Jun 4.
171	大澤 政彦	病理診断科	Case series of 17 patients with cholangiocarcinoma among young adult workers of a printing company in Japan.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Jul;21(7):479-88.
172	大澤 政彦	病理診断科	Enhanced expression of hemoglobin scavenger receptor and heme oxygenase-1 is associated with aortic valve stenosis in patients undergoing hemodialysis.	Hemodial Int. 2014 Jul;18(3):632-40.

173	大澤 政彦	病理診断科	Contrast-enhanced color Doppler ultrasonography increases diagnostic accuracy for soft tissue tumors.	Oncol Rep. 2014 Oct;32(4):1654-60. Epub 2014 Aug 4.
174	大澤 政彦	病理診断科	Incidence of abnormal retropharyngeal lymph nodes in sinonasal malignancies among adults.	Neuroradiology. 2014 Dec;56(12):1097-102. Epub 2014 Sep 17.
175	大澤 政彦	病理診断科	Severe acute hepatitis in a printing company worker: a case study.	J Occup Health. 2015;57(1):87-90. Epub 2014 Nov 19.
176	大澤 政彦	病理診断科	Paraneoplastic Ma Antigen-Like 1 as a Potential Prognostic Biomarker in Human Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Pancreas. 2015 Jan;44(1):106-115.
177	大澤 政彦	病理診断科	Ambulatory sentinel lymph node biopsy preceding neoadjuvant therapy in patients with operable breast cancer: a preliminary study.	World J Surg Oncol. 2015 Feb 15;13:53.
178	元村 尚嗣	形成外科	A New Hybrid Therapy for Buerger's Disease Using a Distal Bypass and Free Temporoparietal Fascial Flap: A Case Report	J Foot Ankle Surg. 53:312-5, 2014
179	元村 尚嗣	形成外科	形成外科医の行うdistal bypass in situ saphenous vein graft	PEPARS 85: 59-67, 2014
180	中根 孝彦	血液内科・造血細胞移植科	Prognostic Value and Clinical Implication of Serum Ferritin Levels following Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation	Acta Haematol. 133(3):310-316,2014

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の流れ、研究者の責務について、同意書の取得 など	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義、マネジメント対象者、利益相反マネジメント委員会について など	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容 倫理指針、倫理審査申請、利益相反についてなど (別途 CITI Japanのe-learningを受講)	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<p>(1) 的確な診断のもと、治療方針・治療計画を決定し、その後の治療効果と予後の判定ができるよう、年次ごとの到達目標を定めて研修プログラムを作成している</p> <ul style="list-style-type: none">・臨床実地研修として、複数の症例を受け持ち、指導医とペアにするなどの指導体制のもと、指導や助言を行う・患者回診や症例検討会へ参加・ローテーションを行い、幅広い知識や症例数を知る・検査手法や基本手術手法の習得・手術前および術後管理の習得 <p>(2) 専門医を受験・取得するための研修プログラムを用意</p> <ul style="list-style-type: none">・各学会へ参加・学会提供の教育プログラム等への参加・抄読会またはセミナー（CPC含む）への参加・症例報告を含む臨床論文の作成 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none">・大学院希望者については、学位取得を目指し、研究等に専念する期間を設けている
--

2 研修の実績

研修医の人数	165 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平田 一人	呼吸器内科	診療科部長	37 年	
谷川 徹也	消化器内科	講師	20 年	
葭山 稔	循環器内科	診療科部長	34 年	
伊藤 義彰	神経内科	診療科部長	25 年	
後藤 仁志	リウマチ科	診療科副部長	30 年	
岩崎 進一	精神科	診療科副部長	20 年	
新宅 治夫	小児科	診療科部長	37 年	
西山 典利	呼吸器外科	診療科副部長	30 年	
平川 弘聖	消化器外科	診療科部長	39 年	
柴田 利彦	心臓血管外科	診療科部長	30 年	
諸富 嘉樹	小児外科	診療科副部長	28 年	
中村 博亮	整形外科	診療科部長	32 年	
山中 一浩	脳神経外科	診療科副部長	29 年	
鶴田 大輔	皮膚科	診療科部長	24 年	
仲谷 達也	泌尿器科	診療科部長	31 年	
古山 将康	産婦人科	診療科部長	35 年	
白木 邦彦	眼科	診療科部長	27 年	
山本 秀文	耳鼻咽喉科	診療科副部長	13 年	
山本 晃	放射線科	病棟主任	16 年	
西山 精宣	麻酔科	診療科部長	36 年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）</p>
<p>■ 治験・臨床研究を実施する際に必要なGCP、利益相反、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(草案)、研究デザイン、 平成26年度 6回開催／第1回：41名、第2回：23名、第3回：22名、第4回：15名、第5回：20名、第6回：25名</p> <p>■ がんプロフェッショナル養成セミナー：H26. 10. 24・H27. 2. 13(計67名)、緩和医療研究会：H26. 6. 18・H26. 11. 19(計66名)、放射線腫瘍医のためのoncologic imaging講座：H27. 1. 29(計54名)</p> <p>■ 医薬品安全管理研修（新規採用者向け…医薬品の安全使用について／30分×11回／437名、新人看護師向け…静脈注射研修／30分×1回／95名、全職員向け…第1回後発医薬品への切り換えについて／30分×1回／89名、第2回平成26年度麻薬事故報告、医薬品のリスク回避について／45分×1回／64名</p> <p>■ がん薬物療法認定薬剤師研修事業における研修性受け入れ（実技…抗がん剤の調製、レジメン管理等 講義…抗がん剤の臨床薬理、緩和ケア等 1月5日～3月20日／1名）</p>
<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）</p>
<p>■ 医療安全管理研修／H26. 4. 1-H27. 3. 31 9回／1,661名(延べ3,905名)</p> <p>■ 院内感染対策研修／H26. 4. 1-H27. 3. 31 9回／1,699名(延べ3,555名)</p> <p>■ 放射線業務での管理に関して／第71回日本放射線技術学会総会：H27. 4. 16-19／12名 (H27. 4. 16-19の4日間にわたる日本放射線技術学会総会では、放射線管理に関してのセッションや発表、セミナーなど多数あり、放射線業務の管理研修としている。) H27年度放射線安全講習会：H27. 7. 9 98名、H27. 7. 16 28名、</p>

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

■ 治験・臨床研究を実施する際に必要なGCP、利益相反、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(草案)、研究デザイン、平成26年度 6回開催／第1回：41名、第2回：23名、第3回：22名、第4回：15名、第5回：20名、第6回：25名(上記①と同様の研修である)

■ 平成26年度認定輸血検査技師制度指定施設研修／
平成26年6月3日(火)～4日(水)・2日間／6名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 石河 修
管理担当者氏名	事務部長 川上悟、庶務課長 豊田雅裕、医事運営課長 川本正裕、 情報システム課長 柚原功 看護部長 大脇和子、薬剤部長 永山勝也、臨床工学部主査 松尾光則

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 看護部 薬剤部 情報システム課	<ul style="list-style-type: none"> ・病院日誌→庶務課 ・各科診療日誌→看護部 ・処方せん→薬剤部 ・手術記録→看護部（OPE室） ・看護記録→情報システム課（電カル） ・検査所見記録→情報システム課（電カル） ・エックス線写真→情報システム課（電カル） ・紹介状→情報システム課（電カル） ・退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書→情報システム課（電カル）
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事運営課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事運営課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事運営課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事運営課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	庶務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	庶務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	庶務課	

の号 状及 況 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	庶務課	
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	庶務課	
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	庶務課	
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	庶務課	
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	庶務課	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規 則 第 一 条	院内感染のための指 針の策定状況	庶務課
	の 十 一 第 一 項	院内感染対策のため の委員会の開催状況	庶務課
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	庶務課
	各 号	感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況	庶務課
	及 び 第 九 条	医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	薬剤部
	の 二 十 三 第 一 項	医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	薬剤部
	第 一 号 に 掲 げ る 体	医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	薬剤部
医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況		臨床工学部	

	制 の 確 保 の 状 況	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 石河 修
閲覧担当者氏名	事務部長 川上悟、庶務課長 豊田雅裕、 情報システム課長 柚原功
閲覧の求めに応じる場所	附属病院内5階 庶務課
閲覧の手続の概要 大阪市情報公開条例に則り、情報を公開している。公文書に関しては原則全てを公開している。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○ 組織及び体制○ 院内報告制度○ 医療安全管理に関する教育・研修○ 医療事故発生時の対応○ 事故の公表○ 医療事故の調査と事故防止対策○ 医療安全相談窓口	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○ 医療安全管理の検討及び推進に関すること○ 医療安全管理に関すること○ 医療事故の調査・審議及び改善策の検討に関すること○ 医薬品に係る安全管理の検討及び推進に関すること○ 医療機器に係る安全管理の検討及び推進に関すること○ その他、医療安全管理に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 1 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○ 病院職員を対象とした講演会等の実施 (5 回)○ 部署別事例研修・出前研修会の開催 (1 回)○ 新規採用職員に対する医療安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な研修 (12 回)○ 講演会及び医療事故・医事紛争事例等の DVD 研修及び e-ラーニング (2 回)○ 全従事者を対象とした A E D 講習会の開催 (1 回)	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<p>病院の各部門は医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデントレポート及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。</p><p>報告されたレポートについては、定期的にリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門あてに詳細な調査や報告書を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p><p>一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し注意喚起している。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (5 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (6 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (8) 名活動の主な内容：	

- 医療安全管理の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、医療安全協議会等の会議を定期的に行い、医療安全管理の推進を図る。
- 医療安全管理に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全に関する意識の高揚を図る。
- 医療安全管理部に送信されたインシデントレポートについて、定期的にはリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。また検討会の分析結果は安対マンスリーに掲載し職員全員に周知する。
- 様々な課題について、医療安全管理部内にテーマに沿った部会を設置し、専門的な立場から問題解決を図る。
- 院内を定期的にパトロールし、医療安全に関する規程や安全マニュアルが順守されているか点検し、必要に応じて指導や安全マニュアル等の見直しを行う。
- 医療事故の再発防止策を実施した際は、防止策の遵守状況の確認及び効果調査を行う。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

○ 有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○ 感染症の分類等○ 組織及び体制○ 感染対策に関する教育・研修○ 感染発生の報告○ 感染発生時の対応○ 感染の調査とその対策○ 指針の閲覧	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○ 院内の感染に関する予防と処置に関すること○ 院内感染防止対策のための指針の策定及び改正○ 院内感染原因菌のスクリーニング及び報告○ 院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図る○ 院内感染対策実施後、検証し見直しを行う	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○ 病院職員を対象とした講演会等の実施(7回)○ 部署別事例研修・出前研修会の開催(1回)○ 新規採用職員に対する手指消毒や感染防御の基本的な研修(12回)○ CDCガイドラインに準拠した感染予防策等のDVD研修及びe-ラーニング(2回)	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○ 病棟・外来で感染症を診断した時には必要な感染対策を実施するとともに、一類～五類感染症のすべて及び院内感染を引き起こす可能性のある感染症については報告を行う。また、届出が必要な感染症の場合は、大阪市保健所(大阪府知事・大阪市長)及び医療安全協議会長宛届出用紙を提出する。○ 専任感染管理者は必要な部門(病院長、医療安全協議会など)へ報告する。○ 医療安全協議会にICTを置き、ICTでは次の任務を行う。○ 感染情報の解析と管理○ 院内感染症のサーベイランス(薬剤耐性菌、手指衛生・蓄尿サーベイランス、抗菌薬・環境ラウンド、全MRSA遺伝子解析、広域抗菌薬・抗MRSA・抗真菌薬使用量調査)○ 耐性菌等の「院内感染サーベイランス報告書」集計○ アウトブレイク時の調査・分析・対策・報告○ 抗菌薬・消毒薬の適正使用に関する指導○ 診療現場の現状把握と感染防止に関する指導○ 従業者への感染防止対策に関する教育と啓発○ 感染対策マニュアル及び感染対策ガイドラインの作成・改訂○ 職業感染防止対策の実施○ ファシリティーマネジメント(施設管理)への関与	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年14回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①新規採用者研修「医薬品安全使用ならびに安全管理のための基本的な注意点について（医師、看護師、医療技術職員など対象：H26年度 11回実施 3月対象者なし）②静脈注射研修（看護師対象 H26年度 1回実施）③医薬品安全管理研修「医薬品の適正使用」および「麻薬の安全管理」（全教職員対象 H26年度 2回実施）④臨床研修医、卒後研修（開催時期を3月→5月に変更したため H26年度の実施なし）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 (有・無)業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①内用・外用薬処方の方法、取扱い②注射薬の取扱い③医薬品管理（麻薬・覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬、筋弛緩薬注射剤、特定生物由来製品、特定抗菌薬、定数配置しているハイリスク薬など）④安全性情報（院内副作用報告体制、緊急安全性情報の連絡体制）⑤薬品採用・購入（薬事委員会規程）⑥服薬指導・与薬 <p>定期的に病棟、診療科を巡回し、実施状況の確認を行なっている。 (病棟：月1回、外来：年4回実施)</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医薬品の安全性に関わる情報については、文書配布、電子カルテ掲示板に掲載、各診療科の薬事委員にメール配信している。当該薬品の処方医を抽出し、診療科ごとに処方医師一覧表を作成し配布し、内容を確認後サインして薬剤部に返却することとしている。その他<ul style="list-style-type: none">①処方オーダー時の薬剤アレルギーチェックがすべての医薬品を対象に実施可能とした。また、チェックレベルも禁忌（処方不可）、注意（承認すれば処方可）の2段階で登録可能とした。②患者腎機能データから系統的に投与量チェックを行っているが、院内非採用の入院時持参薬についてもチェック可能とし、データベースも追加した。③注射薬の血管外漏出による皮膚障害の事故防止として、高濃度カリウム製剤、電解質補正用製剤の投与について注意喚起を行った。 (周知文書の配布、電子カルテ内に資料を掲載、電子カルテ、ポケットチャートへのコメント表示、周知期間中の薬剤払出し時に注意喚起用紙の添付) <p>※薬剤師が専任安全管理者として医療安全管理部に配置されており、医薬品に関わるインシデント報告の中で特に重要性の高い内容を薬剤部と専任安全管理者で協議し、研修会を企画・開催している。また、医療安全協議会において疑義照会事例の報告を行い、注意喚起を行うとともに、事故防止のための対策を検討している。</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年233回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器・除細動装置・血液浄化装置・生体情報モニター装置・酸素療法器具について、安全使用のための合同研修会を開催した。 また、人工心肺装置・補助循環装置・生体情報モニター・シリンジポンプ・輸液ポンプ・経腸栄養ポンプ等の医療機器について、部署別研修会を実施した。	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動装置・閉鎖式保育器・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・手動式人工蘇生器・その他（10品目以上）の医療機器・医療器具について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づいた保守点検を実施した。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集、その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 厚生労働省やPMDA等から配信される医療機器不具合情報を随時収集し、院内に周知すべき内容については、医療機器安全性情報及び院内Web等での情報配信を行った。 2. 製造メーカー等から提供される回収（改修）情報に対して、臨床工学部で一括した情報収集を行い、これらの情報を関連部署に提供した。 3. MEセンターで中央管理されている医療機器については、更新計画を策定し、医療機器委員会を通じて計画的な更新と機種統一を進めている。 4. 医療機器の添付文書の内容については、電子カルテからPDFファイル形式で閲覧できるようにした。 5. 医療機器安全管理手順書を各部署に配布し、毎年、見直し改訂を行っている。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<p>・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価Ver. 6.0を認定を受けている。</p> <p>(2012年5月28日～2017年5月27日)</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページを活用して、随時情報発信することに加えて、市民・患者様向けには情報誌「そよ風」を発行・提供している。(年3回)</p> <p>地域医療機関・関係医療機関には「大阪市立大学医学部附属病院概要」を発行・提供している。(年1回)</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>緩和ケアチーム、褥瘡委員会、患者様への栄養サポートチーム (NST) 等を組織し複数の診療科で連携して、患者様への診断等に対応できる体制を確保している。</p>	